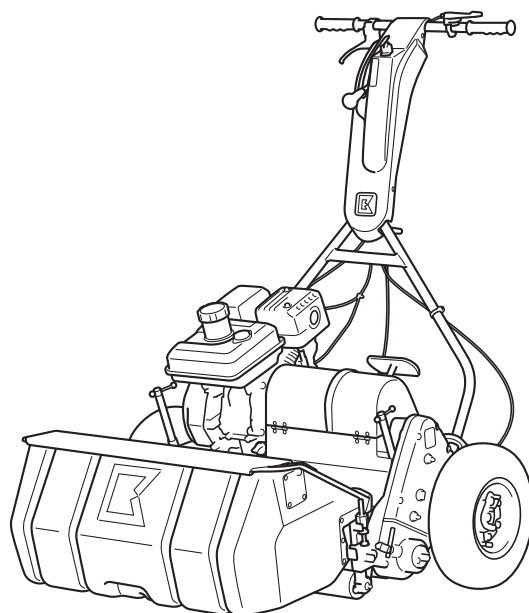


LM22GK・LM26GK LM26TK

グリーンモア
ティーモア

取扱説明書



Serial No. LM22GK : 12001- ・ LM26GK : 12001-
LM26TK : 12001-

「必読」
ご使用前に必ず本書をお読みください。

BARONESS[®]
Quality on Demand

Ver.1.0

ごあいさつ

このたびは、パロネス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本書は、本機の正しい取り扱い方法と調整方法、また点検方法について説明しています。

機械をご使用になる前に必ず本書をお読みいただき、内容を十分にご理解の上、ご使用ください。

いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。

本書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑のかからない、適切な方法でご使用ください。

本機を適切かつ安全に使用するのはお客様の責任です。

本書に無い保守、整備などは決して行わないでください。

エンジン・バッテリーなどの取扱説明書も必ずお読みください。

整備を行う場合は専門知識のある要員によって作業を行ってください。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店、販売店または、弊社におたずねください。

お問い合わせの際には、必ず本機の型式と製造番号をお知らせください。

本機を貸与または、譲渡する場合は本機と一緒に本書をお渡しください。

株式会社 共栄社

注意

本書記載事項は、改良のため予告なしに変更する場合があります。
部品交換を行う場合は、必ず「BARONESS 純正部品」または「弊社指定部品」を使用してください。
純正部品以外の部品を使用して生じた不具合については責任を負いかねます。

危険警告記号の説明

本書では安全に関する重要な取り扱い上の注意事項について、危険警告記号を使用し、次のように表示しています。



696cq5-001

危険警告記号

この記号は「危険」「警告」「注意」に関する項目を意味します。

いずれも安全確保のための重要事項が記載してありますので、注意してお読みいただき、十分理解してから作業を行ってください。

これらを遵守されない場合、事故につながる恐れがあります。

危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。

警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しています。

注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのある、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。

重要

製品の構造などの注意点を示しています。

はじめに

使用目的

本機は、ゴルフ場の芝草刈り作業を目的とした機械です。

この目的以外で使用したり、機械の改造をしないでください。

本機をその他の目的で使用したり、改造すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。

安全	Page 1-1
安全上の注意事項	Page 1-2
廃棄	Page 2-1
リサイクルおよび廃棄処分	Page 2-2
製品概要	Page 3-1
仕様	Page 3-2
各部の名称	Page 3-5
警告ラベルと指示ラベル	Page 3-6
取り扱い説明	Page 4-1
使用前の準備	Page 4-2
使用前の点検	Page 4-3
締め付けトルク	Page 4-8
使用前の調整	Page 4-10
エンジン始動・停止方法	Page 4-12
各部の操作方法	Page 4-15
移動	Page 4-18
刈り込み	Page 4-18
運搬	Page 4-20
メンテナンス	Page 5-1
メンテナンス上の注意	Page 5-2
メンテナンス時の機械姿勢	Page 5-2
メンテナンススケジュール	Page 5-3
グリースアップ	Page 5-6
メンテナンス・モア	Page 5-8
メンテナンス・本体	Page 5-20
長期保管	Page 5-22
刈り込みの不具合対処	Page 5-23

目次

安全上の注意事項	Page 1-2
トレーニング	Page 1-2
運転の前に	Page 1-2
運転操作	Page 1-2
保守と保管	Page 1-4

安全

誤使用や整備不良は負傷や死亡事故につながります。

⚠ 危険

本機は、安全な取り扱いができるように設計されており、工場出荷時には十分な試運転、検査を重ねた上で出荷しております。
事故防止のための安全装置は装備しておりますが、これらは適切な操作、取り扱い、および日常の管理方法が大きく影響します。
機械を適切に使用または管理しない場合、人身事故につながる恐れがあります。
以下の安全指示に従い、安全な作業を行ってください。

安全上の注意事項

トレーニング

1. 本書や関連する機器の説明書をよくお読みください。
各部の操作方法や警告ラベル、本機の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
2. オペレーター、整備士が日本語を読めない場合には、オーナーの責任において、本書の内容を十分に説明してください。
3. すべてのオペレーター、整備士に適切なトレーニングを行ってください。
トレーニングはオーナーの責任です。
4. 正しい運転知識の無い方には機械を操作させないでください。
地域によっては機械のオペレーターに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
5. オーナーやオペレーターは自分自身や他の安全に責任があり、オーナーやオペレーターの注意によって事故を防止することができます。
6. 人身事故や器物損壊などについてはオーナー、オペレーター、整備士が責任を負うものであることを忘れないでください。
7. 本書には、必要に応じて追加の安全情報が記載されています。
8. 通常の操作位置から機械の左右を決めていません。

運転の前に

1. 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するには、どのようなアクセサリーやアタッチメントが必要かを判断してください。
メーカーが認めた以外のアクセサリーやアタッチメントを使用しないでください。

2. 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護メガネ、および聴覚保護具（イヤーマフ）を着用してください。
長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれる危険があります。
また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
3. 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような、機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取り除いてください。
4. 子供を芝草刈作業場に入れないでください。
オペレーター以外の大人の監視下に置いてください。
5. 燃料の取り扱いには十分注意してください。

⚠ 警告

燃料は引火性が高いので、以下の注意を必ず守ってください。

- [1] 燃料は専用の容器に保管する。
- [2] 給油はエンジンを始動する前に行う。
エンジンの運転中やエンジンが熱いときに燃料タンクのフタを開けたり給油をしない。
- [3] 給油は必ず屋外で行い、給油中は火気厳禁とする。
喫煙しない。
- [4] 燃料がこぼれたらエンジンを始動せずに、機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
- [5] 燃料タンクや燃料容器のフタは確実に閉める。
6. 運転操作装置（ハンドル、ペダル、レバーなど）、安全装置、防護カバーが正しく取り付けられ、正しく機能しているか点検してください。
これらが正しく機能しないときには作業を行わないでください。
7. ブレーキの効きが悪かったり、ハンドルに著しいガタがある場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
8. マフラーが破損したら必ず交換してください。

運転操作

1. 有毒な一酸化炭素ガスがたまる可能性のある閉め切った場所では、エンジンを作動しないでください。
2. 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や、隠れた危険を避けるようにしてください。

3. エンジンを始動する前に作業部への駆動をすべて遮断し、走行シフトをニュートラルにしてください。
4. 本書の指示に従い、刃から足を十分離れた状態でエンジンを始動させてください。
5. できるだけ、濡れた草地での運転を避けてください。
6. 傾斜地では常に足元に注意してください。
7. 走らないでください。
8. 「安全な斜面」はありません。
芝生の斜面での作業には特に注意が必要です。
転倒を防ぐために
 - [1] 極端に急な傾斜地では作業をしない。
 - [2] 斜面では急停止、急発進しない。
 - [3] 走行クラッチがある機械はクラッチをゆっくりつなぐ。
また坂を下る場合は、走行ギヤを入れた状態にする。
 - [4] 斜面の走行や旋回は低速で行う。
9. ガードが破損したり、正しく取り付けられていない状態のまま運転しないでください。
インターロック装置は絶対に取り外さないでください。
正しく調整した状態で使用してください。
10. エンジンのガバナーの設定を変えたり、エンジンの回転速度を上げすぎたりしないでください。
エンジンを規定以上の速度で運転すると、人身事故を起こす危険が増大します。
11. 高温部に触れないように注意してください。
12. 運転位置を離れる場合は次を厳守してください。
 - [1] 平らな場所に停止する。
 - [2] 作業部の動力を遮断する。
 - [3] エンジンを止める。
13. 以下のような状況になった場合には、エンジンを止めてください。
 - [1] 燃料を給油するとき。
 - [2] グラスキャッチャーを取り外すとき。
 - [3] 刈高を調整するとき。
ただし運転位置から遠隔操作で行える場合は除きます。
 - [4] 詰まりを取り除くとき。
 - [5] 機械の点検、清掃、整備作業などをするとき。
 - [6] 機械を離れるとき。
- [7] 機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。
機械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。
14. 作業部や回転部に手足を近づけないでください。
15. エンジン作動中は、機械を持ち上げたり、運んだりしないでください。
16. 後進するときは、下方と後方の安全に十分注意してください。
17. 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときは、絶対に作業を行わないでください。
18. 旋回するとき、管理道路やカート道、歩道を横断するときは減速し、周囲に十分注意してください。
19. 草地以外の場所では、刃の回転を停止してください。
20. 移動走行中や作業を休んでいるときは、作業部への駆動を止めてください。
21. アタッチメントなどを使用する場合、排出方向などに気をつけ、人に向けてないようにしてください。
また作業中は機械に人を近づけないでください。
22. アルコールや薬物を摂取した状態で運転をしないでください。
23. 本機をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。
積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。
トラックやトレーラーに積載して移動するときは、本機のエンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。
あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。
24. 本機を輸送する場合は、燃料コックは閉じてください。
25. 見通しの悪い曲がり角、植え込みや立ち木などの陰では安全に十分注意してください。
26. わき見運転、手放し運転はしないでください。
27. エンジン停止中はスロットルを「LOW」（かめマーク側）にしておいてください。
燃料コックが付いている場合は、燃料コックを閉じてください。
28. 落雷の恐れがあるときは、機械を動かさないでください。

安全

保守と保管

1. 修理・調整・清掃作業の前には、平らな場所で機械を停止し、作業部の駆動を遮断し、エンジンを停止し、念のために点火プラグからワイヤーを抜いてください。
また、機械のすべての動きが完全に停止したことを確認し作業を行ってください。
2. 火災防止のため、エンジンやマフラー、燃料タンクの周囲、作業部の周囲、および駆動部に、余分なグリス、草や木の葉、埃などがたまらないよう注意してください。
オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。
3. 閉めきった場所に本機を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
4. 本機にシートをかけて保管する場合は、過熱部分が十分冷めていることを確認してから行ってください。
5. 炎や火花がある屋内では、タンクに燃料が入った状態で保管しないでください。
6. 機械の保管・搬送時には、燃料コックが付いている機械は、燃料コックを閉じてください。
7. 炎の近くに燃料を保管しないでください。
8. 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させないでください。
9. 点検・整備はマフラーやエンジンが冷めてから行ってください。
10. 調整、整備などに必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
11. 機械をジャッキアップする場合は、ジャッキスタンドなどを使用し、確実に支えてください。
12. 部品を取り外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。
13. 配線などが接触したり、被覆のはがれがないように注意してください。
14. リールカッターとベッドナイフの点検を行うときには、安全に十分注意してください。
[1] 必ず手袋を着用してください。
[2] 刃合わせ調整中は、リールカッターとベッドナイフの間に指が挟まれないように十分注意してください。
15. 可動部に手足を近づけないでください。
エンジンが作動したままで調整作業をしないでください。
16. すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。
消耗したり破損した部品やラベルは安全のため早期に交換してください。
17. 常に機械全体の安全を心掛け、ナットやボルト、ねじ類が十分締まっているかを確認してください。
18. グラスキャッチャーの摩耗や劣化を、こまめに点検してください。
19. 燃料タンクの清掃が必要になった場合は、屋外で作業を行ってください。

リサイクルおよび廃棄処分Page 2-2

リサイクルについて Page 2-2

廃棄処分についてPage 2-2

廃棄

リサイクルおよび廃棄処分

リサイクルについて

バッテリーなどは環境保護および資源の有効活用のためにリサイクルされることを推奨します。
また、地域によっては法律により義務付けられています。

廃棄処分について

整備、修理などの作業で出た廃棄物については、地域の法律に従って適切に処分してください。
(例：廃油、不凍液、ゴム製品、配線など)

仕様	Page 3-2
仕様表	Page 3-2
各部の名称	Page 3-5
機番プレート	Page 3-5
警告ラベルと指示ラベル	Page 3-6
警告ラベルと指示ラベルについて	Page 3-6
警告ラベル・指示ラベル貼付位置	Page 3-6
警告ラベル・指示ラベルの説明	Page 3-7

製品概要

仕様

仕様表

LM22GK

型式	LM22GK		
寸法	全長	グラスキャッチャー有	122 cm
	全幅	移動車輪無	84 cm
	全高	ハンドル	111 cm
質量	総質量（燃料タンク空）		84.3 kg
	グラスキャッチャー*1		3.2 kg
	移動車輪（1台分）*1		6.4 kg
最小回転半径			-
エンジン	型式	三菱 GB131PN	
	種類	空冷4サイクル傾斜形横軸 OHC ガソリンエンジン	
	総排気量	126 cm ³ (0.126 L)	
	最大出力	3.0 kW (4.2 PS) /4,000 rpm	
燃料タンク容量			ガソリン 2.5 dm ³ (2.5 L)
燃料消費率			367 g/kW・h (定格出力時)
エンジンオイル容量			0.5 dm ³ (0.5 L)
作業幅（刈幅）			55.7 cm
作業範囲（刈高）			3.0 (4.0) - 20.0 mm *2
リール刃数			9 枚
駆動方式	走行	メカ方式	
	作業部	メカ切り替え方式	
速さ（HST）			-
速さ（メカ）			5.0 km/h (3,000 rpm 時)
能率			2,224 m ² /h (5.0 km/h x 刈幅 x 0.8)
使用最大傾斜角度			-
タイヤサイズ			4.10/3.50-6
タイヤ空気圧			120 kPa (1.2 kgf/cm ²)
バッテリー			-

出荷時のエンジン最高回転速度は、3,400 rpm

*1：総質量は、*1 を含みます。

*2：最低刈高は、目安です。グリーン状態と装着するベッドナイフにより変化します。

（ ）内の数値は、標準装備のベッドナイフ装着時の刈高です。

LM26GK

型式		LM26GK	
寸法	全長	グラスキャッチャー有	122 cm
	全幅	移動車輪無	93 cm
	全高	ハンドル	111 cm
質量	総質量（燃料タンク空）		87.0 kg [88.0 kg]
	グラスキャッチャー *1		3.8 kg
	移動車輪（1台分） *1		6.4 kg
最小回転半径			-
エンジン	型式	三菱 GB131PN	
	種類	空冷4サイクル傾斜形横軸 OHC ガソリンエンジン	
	総排気量	126 cm ³ (0.126 L)	
	最大出力	3.0 kW (4.2 PS) /4,000 rpm	
燃料タンク容量			ガソリン 2.5 dm ³ (2.5 L)
燃料消費率			367 g/kW・h (定格出力時)
エンジンオイル容量			0.5 dm ³ (0.5 L)
作業幅（刈幅）			64.6 cm
作業範囲（刈高）			3.0 (4.0) - 20.0 mm [3.0 (7.0) - 39.0 mm] *2
リール刃数			9枚 [7枚]
駆動方式	走行	メカ方式	
	作業部	メカ切り替え方式	
速さ（HST）			-
速さ（メカ）			5.0 km/h (3,000 rpm 時) [4.2 km/h (3,000 rpm 時)]
能率			2,584 m ² /h (5.0 km/h x 刈幅 x 0.8) [2,171 m ² /h (4.2 km/h x 刈幅 x 0.8)]
使用最大傾斜角度			-
タイヤサイズ			4.10/3.50-6
タイヤ空気圧			120 kPa (1.2 kgf/cm ²)
バッテリー			-

出荷時のエンジン最高回転速度は、3,400 rpm

[] 内の数値は、パークゴルフ場仕様です。

*1：総質量は、*1 を含みます。

*2：最低刈高は、目安です。グリーン状態と装着するベッドナイフにより変化します。

() 内の数値は、標準装備のベッドナイフ装着時の刈高です。

製品概要

LM26TK

型式	LM26TK		
寸法	全長	グラスキャッチャー有	122 cm
	全幅	移動車輪無	93 cm
	全高	ハンドル	111 cm
質量	総質量 (燃料タンク空)		87.0 kg
	グラスキャッチャー *1		3.8 kg
	移動車輪 (1 台分) *1		6.4 kg
最小回転半径			-
エンジン	型式	三菱 GB131PN	
	種類	空冷 4 サイクル傾斜形横軸 OHC ガソリンエンジン	
	総排気量	126 cm ³ (0.126 L)	
	最大出力	3.0 kW (4.2 PS) /4,000 rpm	
燃料タンク容量			ガソリン 2.5 dm ³ (2.5 L)
燃料消費率			367 g/kW・h (定格出力時)
エンジンオイル容量			0.5 dm ³ (0.5 L)
作業幅 (刈幅)			64.6 cm
作業範囲 (刈高)			4.5 (7.0) - 20.0 mm *2
リール刃数			7 枚
駆動方式	走行	メカ方式	
	作業部	メカ切り替え方式	
速さ (HST)			-
速さ (メカ)			4.3 km/h (3,000 rpm 時)
能率			2,222 m ² /h (4.3 km/h x 刈幅 x 0.8)
使用最大傾斜角度			-
タイヤサイズ			4.10/3.50-6
タイヤ空気圧			120 kPa (1.2 kgf/cm ²)
バッテリー			-

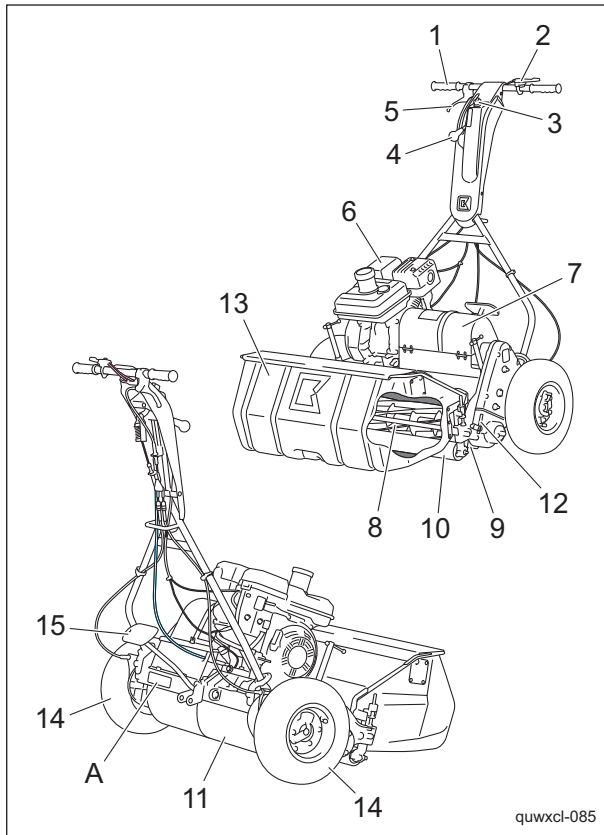
出荷時のエンジン最高回転速度は、3,400 rpm

*1：総質量は、*1 を含みます。

*2：最低刈高は、目安です。グリーン状態と装着するベッドナイフにより変化します。

() 内の数値は、標準装備のベッドナイフ装着時の刈高です。

各部の名称

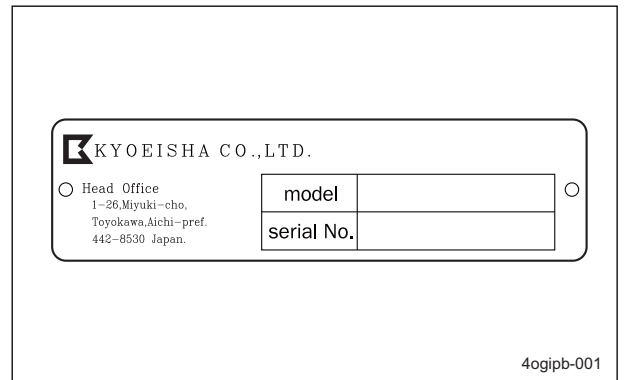


各部の名称_001

1	ハンドル
2	スロットルレバー
3	エンジンスイッチ
4	メインクラッチレバー
5	ブレーキレバー
6	エンジン
7	エンジンクラッチカバー
8	リールカッター
9	ベッドナイフ
10	前ローラー
11	ドラム
12	リールクラッチレバー
13	グラスキャッチャー
14	移動タイヤ
15	スタンド
A	機番プレート

機番プレート

機番プレートは、型式と機番が記載されています。



機番プレート_001

製品概要

警告ラベルと指示ラベル

警告ラベル・指示ラベル貼付位置

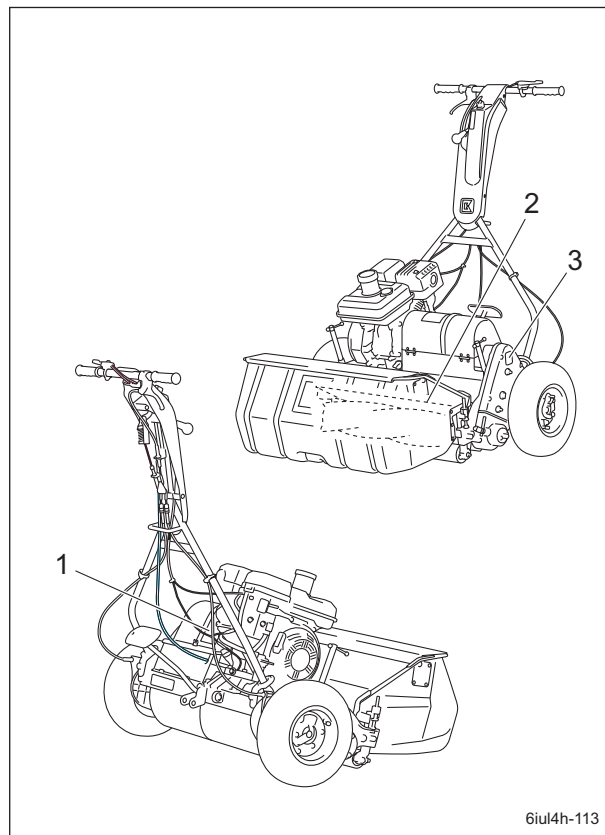
警告ラベルと指示ラベルについて

警告

本機には、警告ラベルと指示ラベルが貼り付けられています。
ラベルはきれいに保ち、損傷や汚れ、はがれがあった場合は、新しいものと交換してください。

交換するラベルの部品番号は、パーツカタログに記載されております。

購入販売店または弊社に注文してください。



6iul4h-113

警告ラベル・指示ラベル貼付位置_001

警告ラベル・指示ラベルの説明

<p>K4205001590 取扱注意ラベル</p> <p>1. 無鉛ガソリンを使用してください。</p> <p>2.</p> <p> 警告</p> <p>取扱説明書をお読みください。</p> <p>3.</p> <p> 危険</p> <p>飛散注意 - 作業者以外は機械から安全な距離を保つようにしてください。</p> <p>4.</p> <p> 危険</p> <p>手足を切る - 刃が回転しているときは、機械から離れてください。</p>	<p>1 </p> <p>2  </p> <p>3  </p> <p>4  </p> <p style="text-align: right;">K4205001590</p> <p style="text-align: right;">qiqqnx-118</p>
<p>K4205001600 切断注意ラベル</p> <p> 危険</p> <p>手足を切る - 刃の回転を停止し、エンジンを停止しないとケガをする危険があります。</p>	<p> </p> <p> </p> <p style="text-align: right;">qiqqnx-010</p>
<p>K4209000370 3 グリースアップ 10 時間マーク 10 時間ごとにグリースアップしてください。</p>	<p></p> <p style="text-align: right;">10h K4209000370</p> <p style="text-align: right;">qiqqnx-119</p>

製品概要

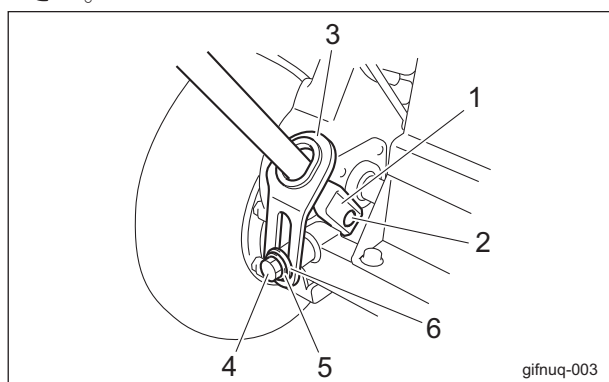
使用前の準備	Page 4-2	エンジンクラッチカバー	Page 4-18
ハンドルの取り付け	Page 4-2	移動	Page 4-18
エンジンスイッチコードの接続	Page 4-2	移動操作	Page 4-18
スタンドの取り付け	Page 4-2	刈り込み	Page 4-18
動作確認	Page 4-3	刈り込み操作	Page 4-18
使用前の点検	Page 4-3	移動タイヤの脱着	Page 4-19
リールカッターとベッドナイフ	Page 4-3	グラスキャッチャーの脱着	Page 4-20
カバー	Page 4-3	運搬	Page 4-20
エアクリーナー	Page 4-4	運搬方法	Page 4-20
ローラー	Page 4-5		
ドラム	Page 4-5		
タイヤ	Page 4-5		
ブレーキ	Page 4-5		
ワイヤー	Page 4-5		
エンジン	Page 4-5		
エンジンオイル	Page 4-6		
燃料	Page 4-7		
油漏れ	Page 4-7		
締め付けトルク	Page 4-8		
標準締め付けトルク	Page 4-8		
重要締め付けトルク	Page 4-9		
使用前の調整	Page 4-10		
ハンドルの調整	Page 4-10		
刃合わせ調整	Page 4-10		
刈高の調整	Page 4-11		
エンジン始動・停止方法	Page 4-12		
エンジン始動・停止	Page 4-12		
各部の操作方法	Page 4-15		
機械操作上の注意	Page 4-15		
機械を離れるときの注意	Page 4-15		
操作ラベルの説明	Page 4-15		
エンジンスイッチ	Page 4-17		
スロットルレバー	Page 4-17		
ブレーキレバー	Page 4-17		
メインクラッチレバー	Page 4-17		
リールクラッチレバー	Page 4-18		

取り扱い説明

使用前の準備

ハンドルの取り付け

1. 左フレームのハンドルピンに、ハンドル左側の下端にある穴をはめ込んでください。
2. ハンドル右側の下端を内側に押しながら、穴を右フレームのハンドルピンにはめ込んでください。
3. 後方から左右のハンドル下端（ハンドル調節金の長穴部）をボルト、さらばね座金、ワッシャーで取り付け、後フレームステーに固定してください。



ハンドルの取り付け_001

1	ハンドル下端
2	ハンドルピン
3	ハンドル調節金
4	ボルト
5	さらばね座金
6	ワッシャー

エンジンスイッチコードの接続



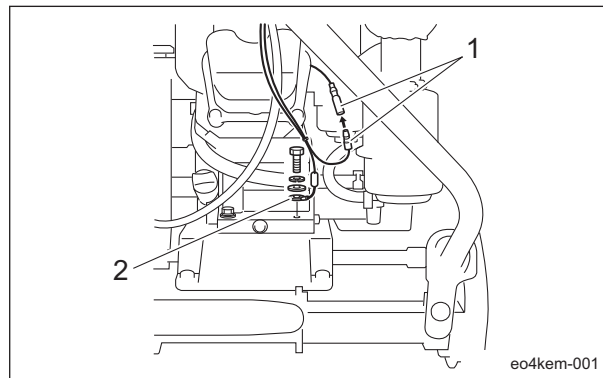
警告

エンジンスイッチコードが接続不良であった場合、エンジンスイッチを操作してもエンジンが停止しません。
確実に接続されているか確認してください。

ハンドル取り付け後、エンジンスイッチコードの接続確認を行ってください。
接続部は2か所あり、ギボシと圧着端子部分です。

1. ギボシはエンジンから出ているギボシと接続されています。

2. 圧着端子は六角ボルトによりエンジクラックケースに締め付けてあります。

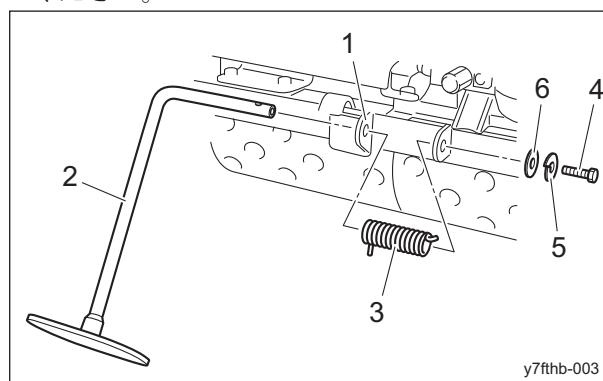


エンジンスイッチコードの接続_001

1	ギボシ
2	圧着端子

スタンドの取り付け

1. フレームのスタンド取付部へ左側からスタンドを差し込んでください。
2. スタンドにスプリングを通してスタンド取付部右側へ貫通させてください。
3. スタンドをボルトとワッシャーで取り付けてください。

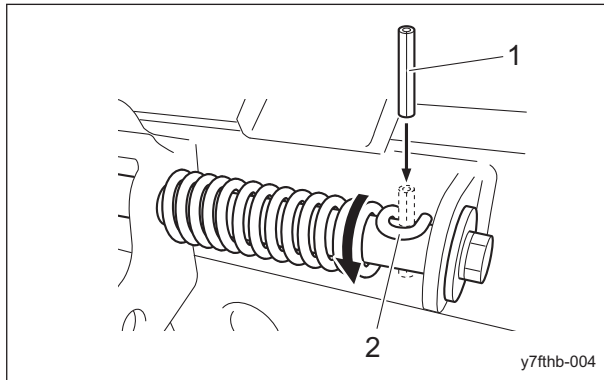


スタンドの取り付け_001

1	フレーム
2	スタンド
3	スプリング
4	ボルト
5	Sワッシャー
6	ワッシャー

4. スタンドの穴部にスプリングピンを打ち込んでください。

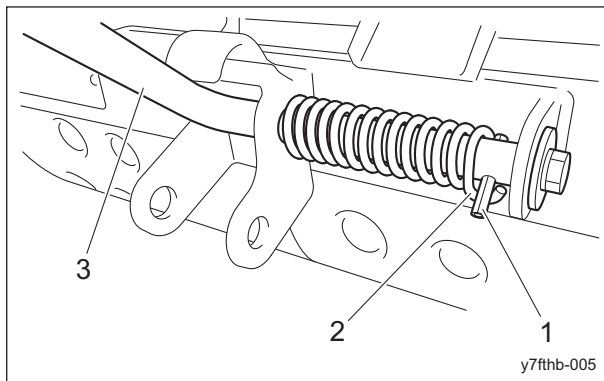
5. スプリングを矢印方向に半回転させてください。



スタンドの取り付け_002

1	スプリングピン
2	スプリング (R部)

6. スプリングのR部をスプリングピンに確実に引っ掛けてください。



スタンドの取り付け_003

1	スプリングピン
2	スプリング (R部)
3	スタンド

7. スタンドを解除したとき、スタンドが確実に跳ね上がることを確認してください。

動作確認

- ブレーキが完全に動作するか確認してください。
- エンジンクラッチが完全に動作するか確認してください。
- 調整が必要な場合は、調整を行ってください。

使用前の点検

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、必ず使用前の点検をしてください。

リールカッターとベッドナイフ

リールカッターとベッドナイフの点検

使用頻度や作業中の異物のかみ込み、移動中での損傷などにより切れにくくなる場合があります。

リールカッターとベッドナイフの点検をし、必要に応じて刃合わせ調整、リールカッターとベッドナイフのバックラッピング、研磨、または交換をしてください。

- リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れにくくなっていないか確認してください。
- リールカッターとベッドナイフが割れていないか確認してください。
- リールカッターとベッドナイフの摩耗量を確認してください。
- リールカッターとベッドナイフが研削焼けし、変色していないか確認してください。
- リールカッターのリリーフ (2番) があるか確認してください。
- リールカッターと円盤との溶接がはがれていないか確認してください。

カバー

カバーの点検

⚠ 注意

点検時にカバーを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。
カバーが取り外されていると、異物が飛散してケガをする恐れがあります。

- リールカバーおよび、各カバーに磨耗や劣化が無いか確認してください。
- リールカバーおよび、各カバーに破損が無いか確認してください。
- リールカバーおよび、各カバーの変形による可動部への干渉が無いか確認してください。
- リールカバーおよび、各カバーが所定の位置に取り付けられているか確認してください。

取り扱い説明

エアクリナー

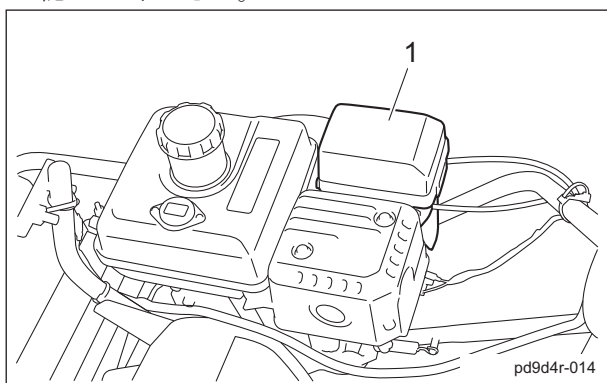
エアクリナーの点検

エンジンの取り扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

エアクリナーは吸入された吸気に含まれている砂塵を取り、シリンダーライナー、ピストンリングの摩耗を防ぎ、エンジンをいつも快調にする装置です。

エアクリナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。

1. エアクリナーに損傷が無いか確認してください。
2. エアクリナーエレメントに汚れが無いか確認してください。



エアクリナーの点検_001

1	エアクリナー
---	--------

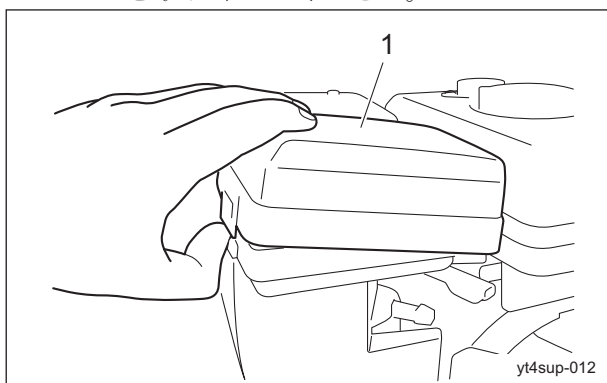
エアクリナーの清掃

エンジンの取り扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

エアクリナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。

エンジンの寿命を延ばすために適切な清掃をするように心掛けてください。

1. カバーを取り外してください。



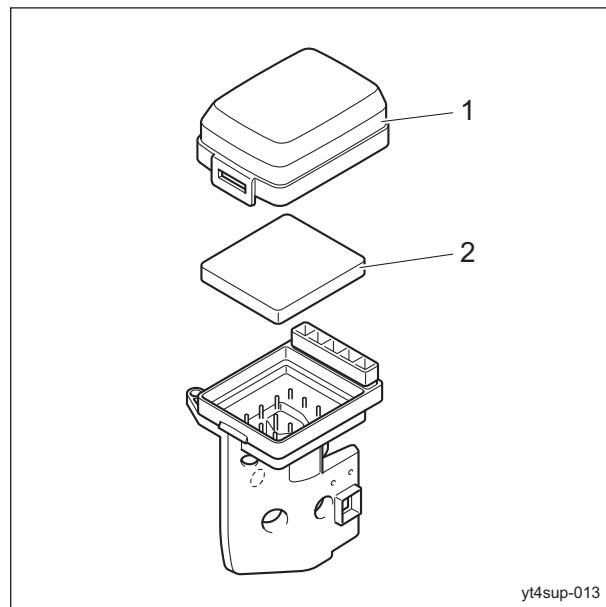
エアクリナーの清掃_001

1	カバー
---	-----

重要

エアクリナーエレメントは、破損や汚れがある場合は交換してください。

2. エアクリナーエレメント（ウレタンエレメント）を取り外してください。



エアクリナーの清掃_002

1	カバー
2	エアクリナーエレメント（ウレタンエレメント）

3. ウレタンエレメントは、洗油（白灯油）で洗浄後、エンジンオイルに浸し、硬く絞ってください。

重要

エアクリナーエレメントは、植毛面が上側になるように取り付けてください。

4. エアクリナーエレメント（ウレタンエレメント）を取り付けてください。
5. カバーを取り付けてください。

ローラー

ローラーの点検

使用頻度によるベアリングの摩耗や、水分が入ることでベアリングなどが損傷することにより、ローラーが円滑に回らないことがあります。ローラーの点検をし、必要に応じてオイルシール、ベアリングなどの部品を交換してください。

1. ローラーの減り、固着が無いか確認してください。
2. ローラー軸が摩耗していないか確認してください。
3. オイルシールの摩耗、損傷は無いか確認してください。
4. ベアリングの摩耗、さびは無いか確認してください。
5. ローラー軸にガタが無いか確認してください。

ドラム

ドラムの点検

1. ドラムに亀裂、破損が無いか確認してください。
2. ドラムの減り、固着が無いか確認してください。
3. ドラム軸にガタが無いか確認してください。

タイヤ

タイヤの点検

1. タイヤの空気圧を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常摩耗が無いか確認してください。

	タイヤサイズ	空気圧
移動タイヤ	4.10/3.50-6	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)

ブレーキ

ブレーキの点検

⚠ 危険

ブレーキワイヤーに亀裂、破損が無いかを確認してください。
亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

⚠ 注意

機械を水平な場所に駐車してください。
傾斜地での駐車は絶対にしないでください。

1. ブレーキレバーを握り、ブレーキが完全に動作するか確認してください。
2. ブレーキレバーを戻したとき、ブレーキの引きずりが無いことを確認してください。

ワイヤー

ワイヤーの点検

1. ワイヤーに亀裂、破損が無いか確認してください。
2. 亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

エンジン

エンジン周りの点検

エンジンの取り扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

1. 燃料系の部品は、取り付け部に緩みやひび割れ、漏れが無いか確認し、必要があれば交換してください。
2. マフラーやマフラーの周りに芝草や可燃物が付着している場合は、圧縮空気を吹き付けて清掃してください。

取り扱い説明

エンジンオイル

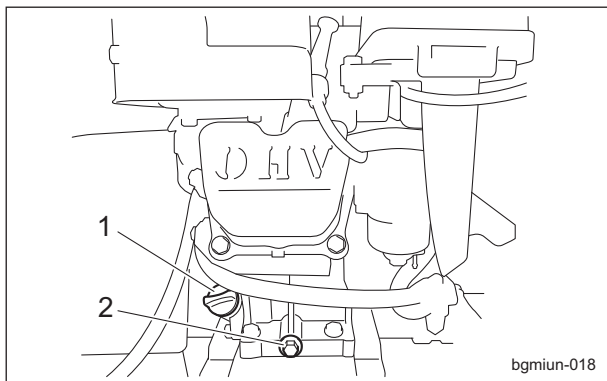
エンジンオイルの点検

エンジンの取り扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

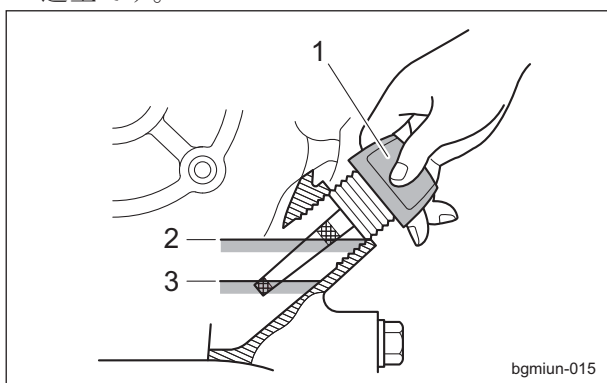
1. オイルレベルの点検は、エンジンを停止し、10 - 20 分後に行ってください。
2. エンジンを水平な状態にし、注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。



エンジンオイルの点検_001

1	オイルレベルゲージ (オイル注入口)
2	ドレンプラグ

3. エンジンオイル量が上限と下限の間であれば適量です。



エンジンオイルの点検_002

1	オイルレベルゲージ
2	上限
3	下限

4. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。

エンジンオイルの補給

エンジンの取り扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

重要

エンジンオイルの入れ過ぎは、エンジンの破損事故の原因となります。

重要

絶対に異なった種類のエンジンオイルを混ぜないでください。

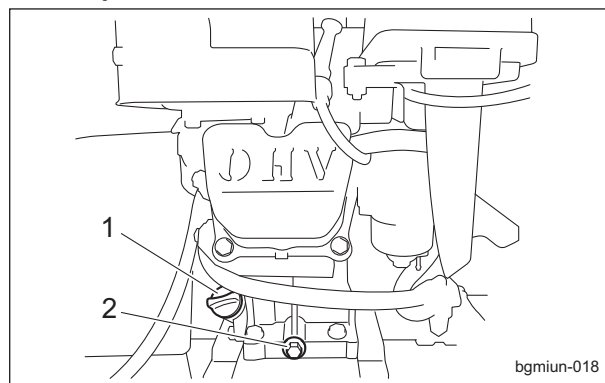
重要

エンジンオイルは、API サービス分類の SE 級以上で、使用環境 (気温) に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

1. オイルレベルゲージを取り外してください。
2. オイル注入口から新しいエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限になるまでエンジンオイルを入れてください。
3. エンジンを水平な状態にし、注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。
4. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。



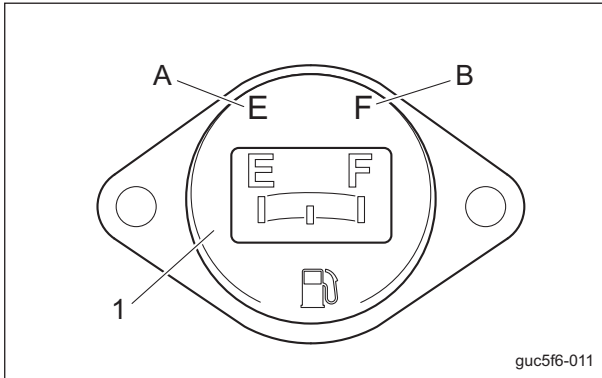
エンジンオイルの補給_001

1	オイルレベルゲージ (オイル注入口)
2	ドレンプラグ

燃料

燃料の点検

機械を水平な状態にし、燃料タンク上の燃料ゲージにて、量の確認をしてください。



燃料の点検_001

1	燃料ゲージ
A	EMPTY
B	FULL

燃料の給油

⚠ 危険

燃料ゲージの FULL の位置以上に給油はしないでください。
燃料を入れ過ぎると、傾斜地での走行・作業時などにタンクキャップより燃料があふれる可能性があります。

⚠ 警告

燃料給油時は、火気厳禁です。
喫煙しないでください。

⚠ 警告

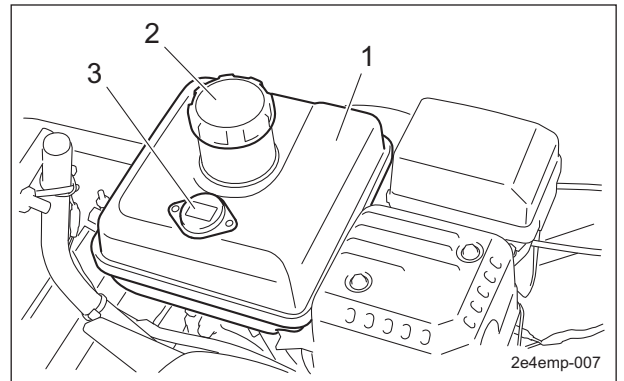
燃料の給油はエンジンを停止し、十分冷えてから行ってください。

⚠ 注意

高温部に触れないように注意してください。

燃料タンク上の燃料ゲージが、EMPTY に近づいたら早めに燃料（ガソリン）の給油を行ってください。

燃料タンク容量は、約 2.5 dm³ (2.5 L) です。



燃料の給油_001

1	燃料タンク
2	タンクキャップ
3	燃料ゲージ

油漏れ

各部油漏れの点検

本機を 50 時間くらい使用すると、締め付け部の緩みなどが発生し、オイルやグリースが漏れる可能性があります。

必ず増し締めを行ってください。

機械の下を確認し、オイルやグリースなどの漏れが無いか確認してください。

取り扱い説明

締め付けトルク

標準締め付けトルク

ボルト、ねじ類



重要

各部には、ボルト止めが多く使われております。
使用初期はボルト、ナットなどの緩みが出る場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。

特別指示の無いボルト、ナットは、適切な工具により適正な締め付けトルクで締め付けてください。
締め付けが強すぎると「ねじ」は緩んだり、破損したりします。
締め付け強さは、ねじの種類、強度、ねじ面や座面の摩擦などで決めております。
一覧表は、亜鉛メッキまたはパーカー処理したボルトを対象としております。
めねじの強度が弱い場合は適用できません。
さびていたり、砂などが付着している「ねじ」は、使用しないでください。
所定の締め付けトルクを与えても締め付け不足になります。
ねじ面の摩擦が大きくなり、締め付けトルクのほとんどを摩擦損失し、締め付ける力になりません。
「ねじ」が水や油で濡れている場合は、通常の締め付けトルクで締めないでください。
ねじが濡れるとトルク係数が小さくなり、締め過ぎになります。
締め過ぎると、ねじが伸びて緩んだり、破損することがあります。
一度、大きな負荷がかかったボルトは、使用しないでください。
インパクトレンチで締めるときは、熟練が必要です。
できるだけ安定した締め付け作業ができるように練習してください。

呼び径	一般ボルト		
	強度区分 4.8		
			
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	3 - 5	30.59 - 50.99	26.55 - 44.26
M6	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66
M8	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17
M10	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34
M12	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02
M14	70 - 94	713.79 - 958.52	619.57 - 831.99
M16	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31
M18	116 - 144	1,182.85 - 1,468.37	1,026.72 - 1,274.54
M20	147 - 183	1,498.96 - 1,866.05	1,301.10 - 1,619.73
M22	295	3,008.12	2,611.05
M24	370	3,772.89	3,274.87
M27	550	5,608.35	4,868.05
M30	740	7,545.78	6,549.74

取り扱い説明

呼び径	調質ボルト					
	強度区分 8.8			強度区分 10.9		
						
	N-m	kgf-cm	lb-in	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	5 - 7	50.99 - 71.38	44.26 - 61.96	7 - 10	71.38 - 101.97	61.96 - 88.51
M6	8 - 11	81.58 - 112.17	70.81 - 97.36	14 - 18	142.76 - 183.55	123.91 - 159.32
M8	23 - 29	234.53 - 295.71	203.57 - 256.68	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34
M10	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68
M12	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03
M14	106 - 134	1,080.88 - 1,366.40	938.21 - 1,186.03	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99
M16	152 - 188	1,549.94 - 1,917.04	1,345.35 - 1,663.99	210 - 260	2,141.37 - 2,651.22	1,858.71 - 2,301.26
M18	200 - 240	2,039.40 - 2,447.28	1,770.20 - 2,124.24	280 - 340	2,855.16 - 3,466.98	2,478.28 - 3,009.34
M20	245 - 295	2,498.27 - 3,008.12	2,168.50 - 2,611.05	370 - 450	3,772.89 - 4,588.65	3,274.87 - 3,982.95
M22	—	—	—	530	5,404.41	4,691.03
M24	—	—	—	670	6,831.99	5,930.17
M27	—	—	—	1,000	10,197.00	8,851.00
M30	—	—	—	1,340	14,628.78	11,860.34

参考：

「細目ねじ」についても、同じ数値とする。

重要締め付けトルク

機種別締め付けトルク

LM22GK/LM26GK/LM26TK

次のボルト、ナットは下記のトルクで締め付けてください。

ねじ緩み止め剤は、ネジロック中強度（スリーボンド 1322 相当品 嫌気性封着剤）を塗布してください。

部位	コード番号	品名	締め付けトルク			ねじ緩み止め剤
			N-m	kgf-cm	lb-in	
エンジンラッチ部	K0013060251	6 調質ボルト 25	14	142.76	123.91	-
ドラム車輪関係	K0010080252	8 調質ボルト 25	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34	-
リールカッター	K0185160002	16 左ネジナット 3P1.5	36	367.09	318.64	-
前ローラー	K6083000042	15 継ぎピン 19 (M10)	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	-
ベッドナイフ	K0071000222	6 調質さら小ねじ 12	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66	-
フレーム関係・伝導関係	K6122000020	タップ付中間軸 (M10P1)	17.5	178.45	154.89	-
ハンドル	K0010100252	10 調質ボルト 25	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	-
前ローラー部 (パークゴルフ仕様)	K0041060152	6+さら小ねじ 15 (F ローラーブラケット左/ 右 COMP に含まれる)	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66	○

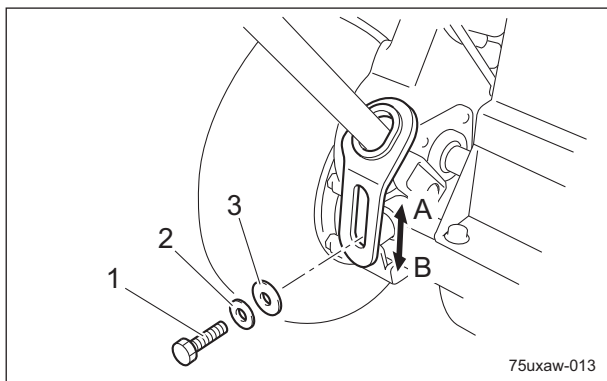
取り扱い説明

使用前の調整

ハンドルの調整

作業者の作業位置に合わせてハンドル高さを調整することができます。

ハンドルを支えているハンドル調節金の位置を上下に調整して、ボルトで固定してください。



ハンドルの調整_001

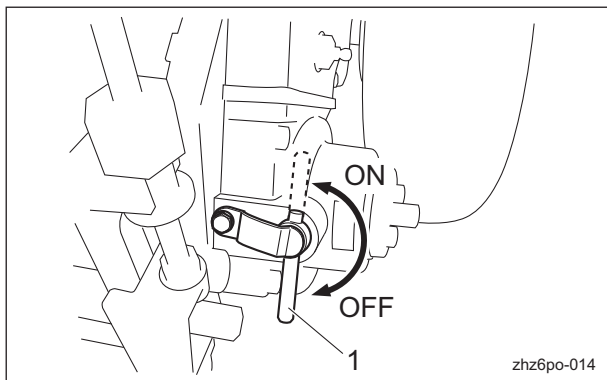
1	ボルト
2	さらばね座金
3	ワッシャー
A	高く
B	低く

刃合わせ調整

⚠ 注意

リールカッターやベッドナイフを取り扱うときは、手袋などで手を保護してください。ただし、リールカッターを回すときに手袋などが巻き込まれ、手や指を切る恐れがありますので、十分注意してください。

1. エンジンを停止してください。
2. リールクラッチレバーを「OFF」の位置にしてください。



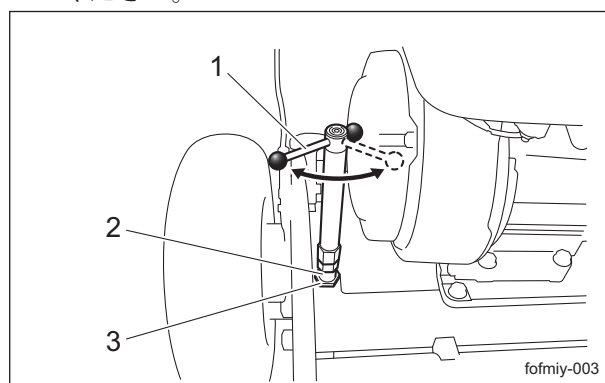
刃合わせ調整_001

1	リールクラッチレバー
---	------------

3. リールカッターとベッドナイフの刃合わせ調整は、カッター調節金により刃先全面を軽く接触させ、新聞紙（1枚）がけばだたず切れるように調整してください。

4. 短冊型に裂いた新聞紙1枚をリールカッターとベッドナイフの間に90°に入れ、モアユニットを左から見てリールカッターを反時計回転に手で回して切り、切れ味を調べます。リールカッターの全面（左右3-4か所程度）にわたり、切れ味を調べてください。

- ・刃先にすき間が生じた場合
カッター調節金を緩めると（反時計回り）、リールカッターとベッドナイフの接触は強くなります。
- ・リールカッターが固くて回転しにくい場合
カッター調節金を締めると（時計回り）、リールカッターとベッドナイフの接触は弱くなります。
- ・調整しても切れない場合
リールカッターのバックラッピングをしてください。



刃合わせ調整_002

1	カッター調節金
2	カッター調節ネジ付パイプ
3	カッター調節ロックナット

刈高の調整

刈り込み作業に応じて、刈高を調整してください。

重要

セット刈高のため実際の刈高とは異なります。

刈高とベッドナイフの刃の厚み

型式	刃の種類	刃の厚み (mm/inch)	最低刈高の目安 (mm/inch)	コード番号	部品名称	備考
LM22G K	ムク刃	1.5/0.059	3.0/0.118	K2511000260	1.5 ベッドナイフ 22G	
		2.0/0.079	3.5/0.138	K2511000320	2 ベッドナイフ 22G	
		2.5/0.098	4.0/0.157	K2511000150	2.5 ベッドナイフ 22G	標準装備
	ハイス付刃	3.0/0.118	4.5/0.177	K2510000110	3 ベッドナイフ 62.5-559	
		5.0/0.197	7.0/0.276	K2510000130	5 ベッドナイフ 62.5-559	
LM26G K	ムク刃	1.5/0.059	3.0/0.118	K2511000330	1.5 ベッドナイフ 26G	
		2.0/0.079	3.5/0.138	K2511000340	2 ベッドナイフ 26G	
		2.5/0.098	4.0/0.157	K2511000170	2.5 ベッドナイフ 26G	標準装備
	ハイス付刃	3.0/0.118	4.5/0.177	K2510000120	3 ベッドナイフ 62.5-648.4	
		5.0/0.197	7.0/0.276	K2510000140	5 ベッドナイフ 62.5-648.4	パークゴルフ場仕様 標準装備
LM26TK	ハイス付刃	3.0/0.118	4.5/0.177	K2510000120	3 ベッドナイフ 62.5-648.4	
		5.0/0.197	7.0/0.276	K2510000140	5 ベッドナイフ 62.5-648.4	標準装備

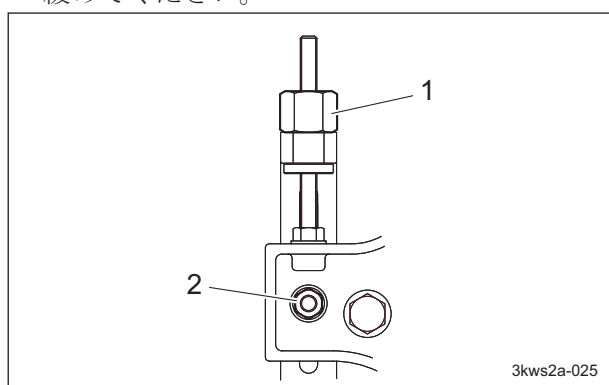
取り扱い説明

前ローラーの調整

前ローラーを上下動することにより刈高は最高 20.0 mm (パークゴルフ場仕様 : 39.0 mm) まで調整できます。

ティーモアで刈高 7.0 mm 以下で刈る場合は、グリーンモア用のベッドナイフを使用してください。

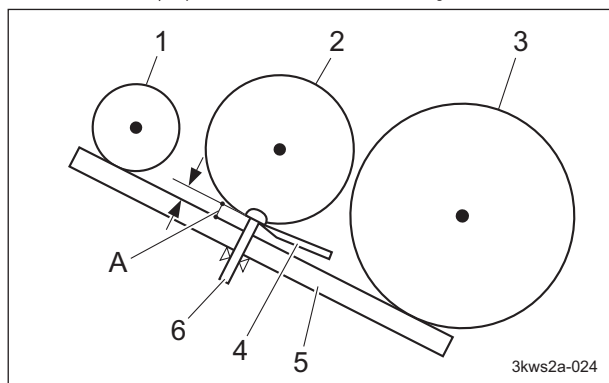
1. 希望の刈高にノギスをセットし、刈高ゲージの刈高用小ねじの首下位置を合わせ、蝶ナットでしっかりロックしてください。
2. ローラーブラケットを固定しているナットを緩めてください。



前ローラーの調整_001

1	ローラー調節金
2	ナット

3. モアユニットの左右両端で、前ローラーとドラムに刈高ゲージを当ててください。
4. ベッドナイフの先端位置にて刈高ゲージの刈高用小ねじの首下とすき間ができないように前ローラーをローラー調節金で上下し、前ローラー位置を決めてください。



前ローラーの調整_002

1	前ローラー
2	リールカッター
3	ドラム
4	ベッドナイフ
5	刈高ゲージ
6	刈高用小ねじ
A	刈高

5. 反対側の刈高調整も同様の手順で行ってください。
6. 左右のローラーブラケットを固定しているナットを締め付け、確実に固定してください。
7. 再度モアユニットの左右両端で、前ローラーとドラムに刈高ゲージを当て、希望の刈高になっているか確認をしてください。

エンジン始動・停止方法

エンジン始動・停止

エンジン始動手順



警告

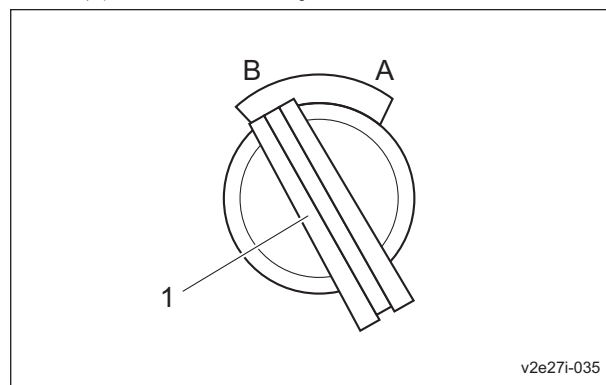
エンジンを始動する前に機械や周囲に人や障害物が無いことを確認してください。



注意

エンジンクラッチカバーが所定の位置に取り付けられているか確認してください。

1. エンジンスイッチが「OFF」になっていることを確認してください。



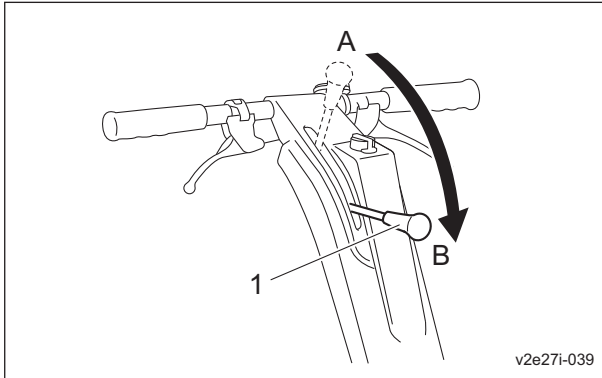
v2e27i-035

エンジン始動手順_001

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

取り扱い説明

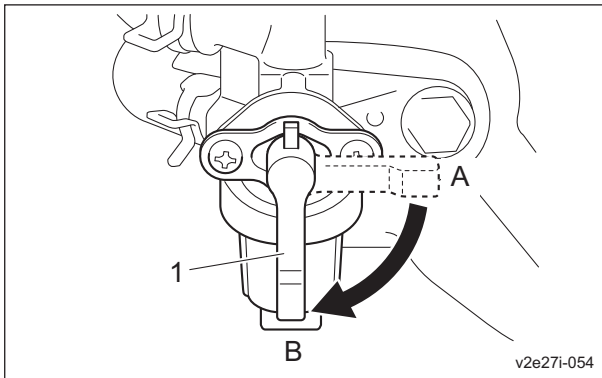
2. メインラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン始動手順_002

1	メインラッチレバー
A	「入」
B	「切」

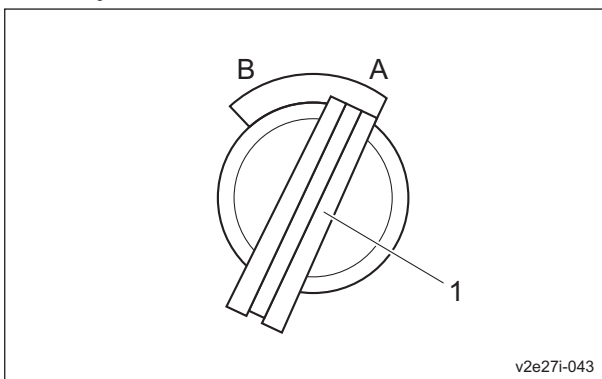
3. 燃料コックを「開」の位置にしてください。



エンジン始動手順_003

1	燃料コック
A	「閉」
B	「開」

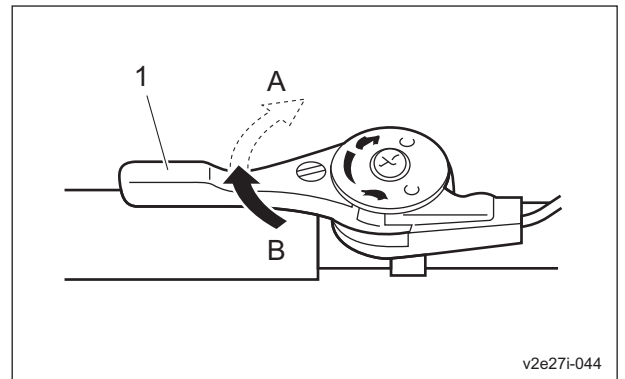
4. エンジンスイッチを「ON」の位置にしてください。



エンジン始動手順_004

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

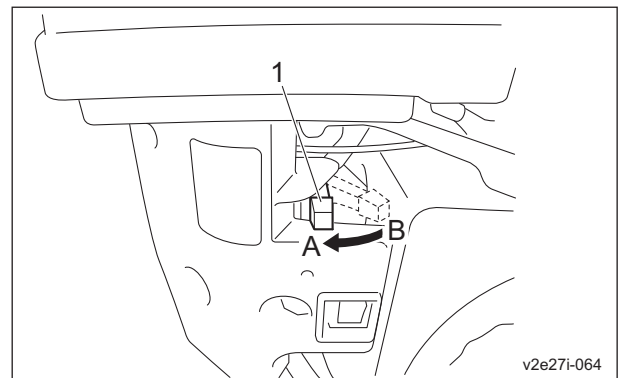
5. スロットルレバーをかめマーク側（低速）から半分程度うさぎマーク側（高速）へ動かしてください。



エンジン始動手順_005

1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

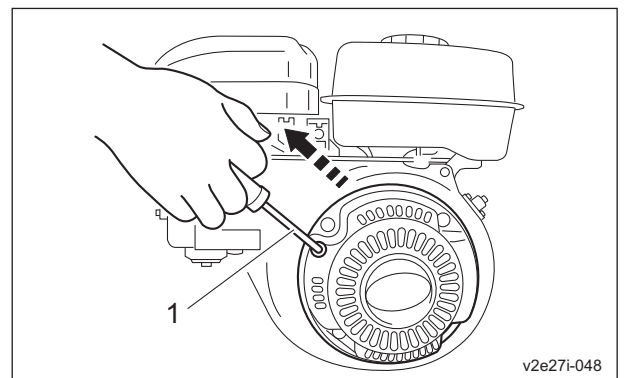
6. チョークレバーを「閉」の位置にしてください。



エンジン始動手順_006

1	チョークレバー
A	「閉」
B	「開」

7. リコイルスターターを引き、エンジンを始動してください。

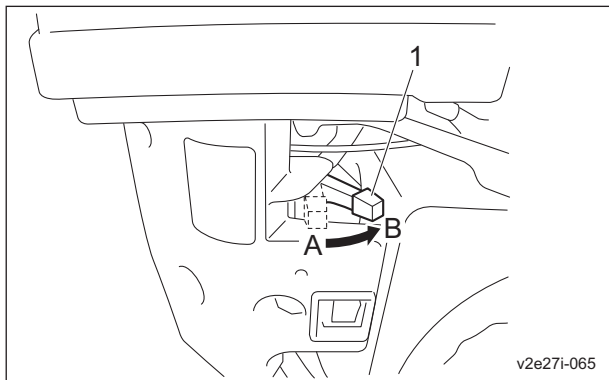


エンジン始動手順_007

1	リコイルスターター
---	-----------

取り扱い説明

8. チョークレバーを「開」の位置にしてください。

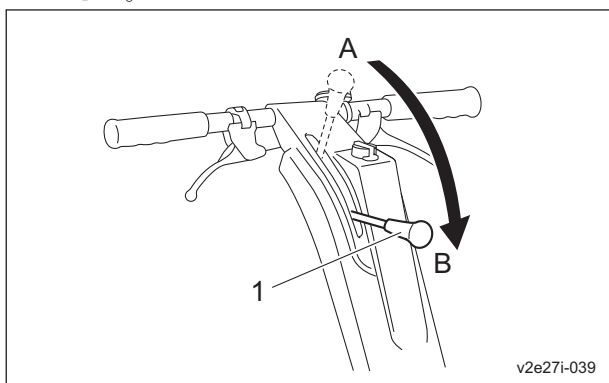


エンジン始動手順_008

1	チョークレバー
A	「閉」
B	「開」

エンジン停止手順

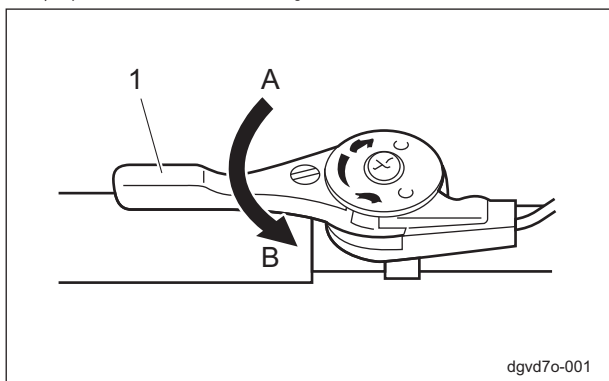
1. メインクラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン停止手順_001

1	メインクラッチレバー
A	「入」
B	「切」

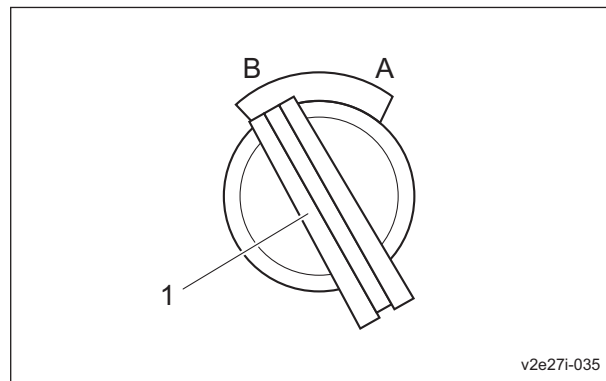
2. スロットルレバーをかめマーク側（低速）の位置にしてください。



エンジン停止手順_002

1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

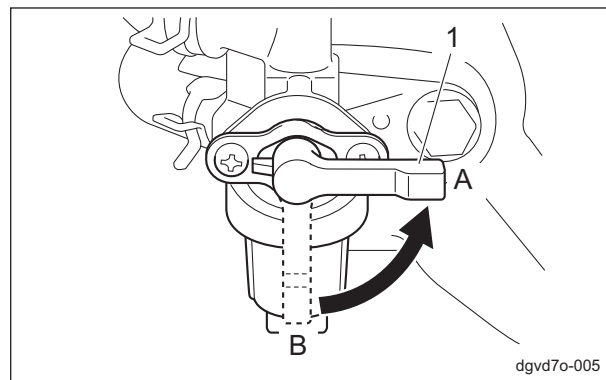
3. エンジンスイッチを「OFF」の位置にしてください。



エンジン停止手順_003

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

4. 燃料コックを「閉」の位置にしてください。



エンジン停止手順_004

1	燃料コック
A	「開」
B	「閉」

各部の操作方法

機械操作上の注意

⚠ 注意

どのような場合にも、緊急停止ができる速さで運転してください。

機械を離れるときの注意

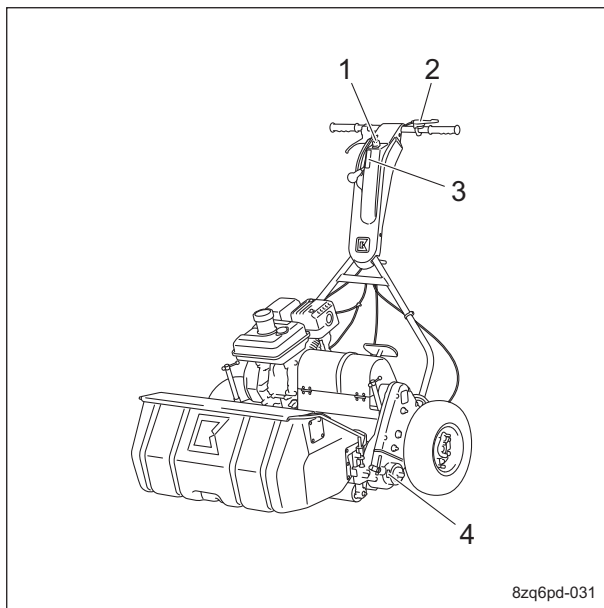
⚠ 注意

機械を水平な場所に駐車してください。
傾斜地での駐車は絶対にしないでください。

⚠ 注意

エンジンが確実に停止していることを確認してください。

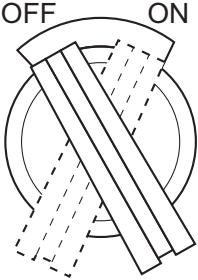
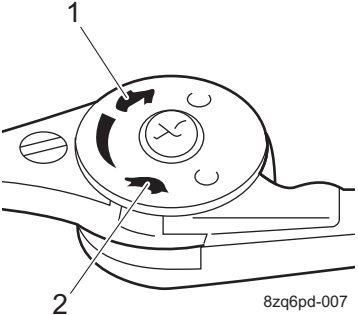
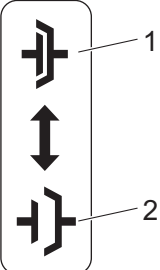
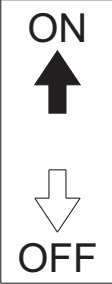
操作ラベルの説明



操作ラベルの説明_001

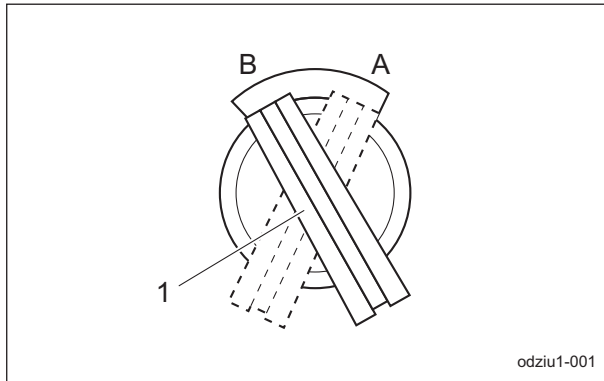
1	エンジンスイッチマーク
2	エンジン回転マーク
3	クラッチ操作マーク
4	ONOFF マーク

取り扱い説明

<p>1</p>	<p>- エンジンスイッチマーク エンジンスイッチの位置を示しています。</p>	 <p>8zq6pd-006</p>
<p>2</p>	<p>- エンジン回転マーク エンジン回転速度の高速・低速を示しています。 1. 高速 2. 低速</p>	 <p>8zq6pd-007</p>
<p>3</p>	<p>K4203001490 クラッチ操作マーク メインクラッチの入・切を示しています。 1. メインクラッチ「入」 2. メインクラッチ「切」</p>	 <p>8zq6pd-019</p>
<p>4</p>	<p>K4203000080 ONOFF マーク リールクラッチの ON・OFF を示しています。</p>	 <p>8zq6pd-011</p>

エンジンスイッチ

エンジンスイッチは、ハンドルにあります。エンジンを始動するときはスイッチを「ON」の位置にし、エンジンを停止するときはスイッチを「OFF」の位置にします。



エンジンスイッチ_001

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

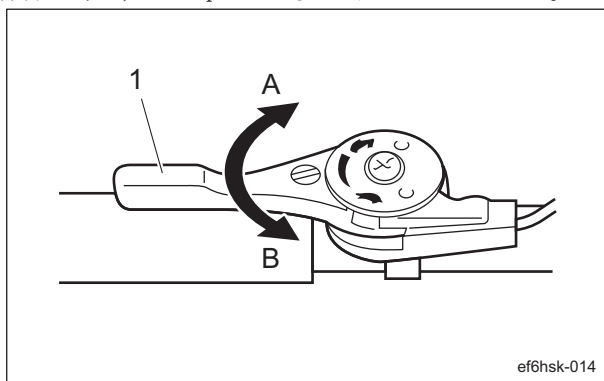
スロットルレバー

スロットルレバーは、ハンドルにあり、エンジン回転速度の高低をレバーで調整します。スロットルレバーは、うさぎマーク側（高速）にするとエンジン回転速度が高くなり、かめマーク側（低速）にするとエンジン回転速度が低くなります。

参考：

出荷時のエンジン最高回転速度は、3,400 rpm に設定してあります。

作業は、3,000 rpm を目安に行ってください。



スロットルレバー_001

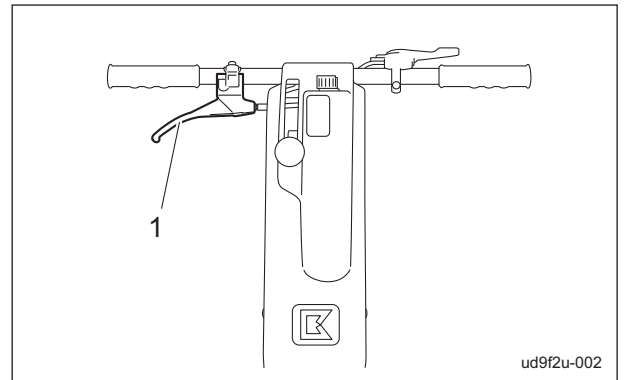
1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

ブレーキレバー

重要

急な操作を行わないように注意し、ゆっくり操作してください。

ブレーキレバーはハンドルにあります。ブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、機械の走行は停止します。



ブレーキレバー_001

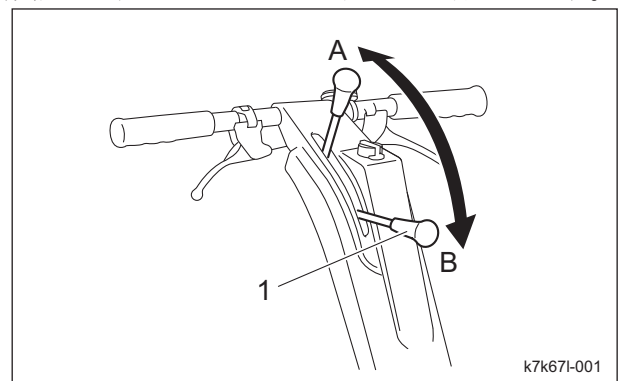
1	ブレーキレバー
---	---------

メインクラッチレバー

重要

急な操作を行わないように注意し、ゆっくり操作してください。

メインクラッチレバーはハンドルにあります。メインクラッチレバーを手前に引き上げると「入」になり前進およびリールカッターが回転します。メインクラッチレバーを前に倒すと「切」になり、機械の走行およびリールカッターは停止します。



メインクラッチレバー_001

1	メインクラッチレバー
A	「入」
B	「切」

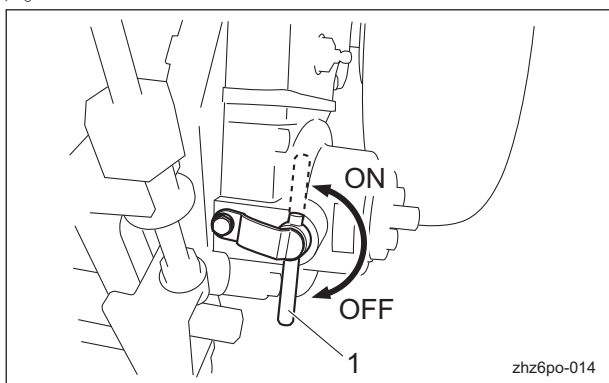
取り扱い説明

リールクラッチレバー

⚠ 注意

リールクラッチレバーは、エンジンの回転が停止しているときに操作をし、作業に合わせた位置にしてください。

リールクラッチレバーは左フレーム前面にあります。
レバーを「ON」にすると、リールカッターが作動します。
レバーを「OFF」にすると、ニュートラルになります。



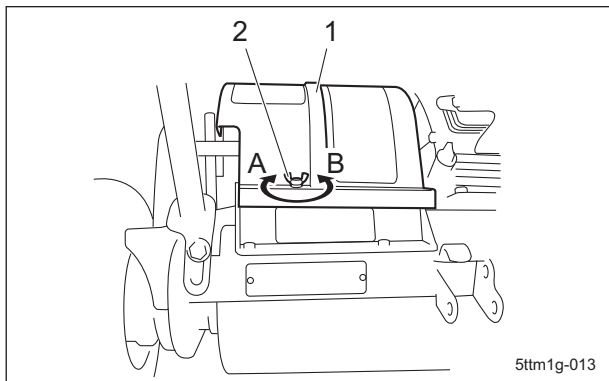
リールクラッチレバー_001

1	リールクラッチレバー
---	------------

参考：
移動の際には、レバーを「OFF」にしてください。

エンジンクラッチカバー

エンジンクラッチカバーはエンジン左側にあり、エンジンクラッチをカバーしています。
エンジンクラッチカバーの開閉は、固定ボルトを左に4 - 5回転回して開け、固定ボルトを右に4 - 5回転回して閉じます。



エンジンクラッチカバー_001

1	エンジンクラッチカバー
2	固定ボルト
A	締まる
B	緩む

移動

移動操作

⚠ 警告

急発進・急停車は、絶対行わないでください。

1. 移動タイヤを装着します。
2. スタンドを解除します。
3. リールクラッチレバーを「OFF」の位置にします。
4. エンジンを始動します。
5. メインクラッチレバーをゆっくりと手前に引き上げます。
6. 発進し、移動できます。

刈り込み

刈り込み操作

⚠ 警告

急発進・急停車は、絶対行わないでください。

⚠ 注意

急な傾斜地では作業を行わないでください。

⚠ 注意

刈り込み作業は、必ず場所にあった速さで行ってください。
凸凹面の刈り込み作業は、刈り込み速さを遅くして行ってください。

⚠ 注意

グラスキャッチャーは必ず装着してください。
作業中は刈り芝を適時、排出してください。

1. 移動タイヤを取り外します。
2. スタンドを解除します。
3. グラスキャッチャーを装着します。
4. リールクラッチレバーを「ON」の位置にします。
5. エンジンを始動します。

6. メインクラッチレバーをゆっくりと手前に引き上げ、刈り込みを始めます。

参考：

出荷時のエンジン最高回転速度は、3,400 rpm に設定してあります。

作業は、3,000 rpm を目安に行ってください。

移動タイヤの脱着

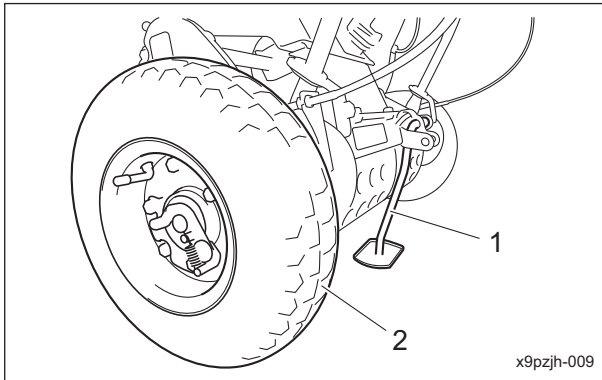
重要

刈り込みは、移動タイヤを取り外して行います。

移動タイヤは自走で移動する際に使用します。

移動タイヤの取り外し：

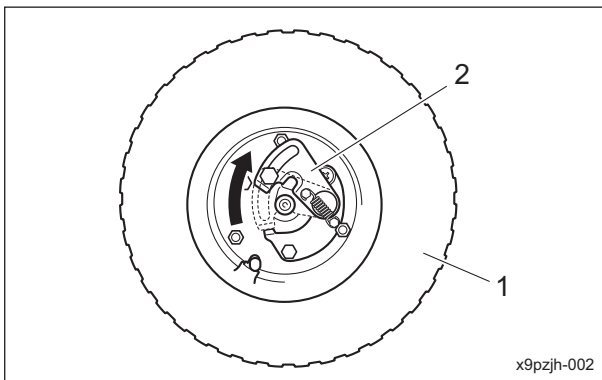
1. スタンドを立ててください。



移動タイヤの脱着_001

1	スタンド
2	移動タイヤ

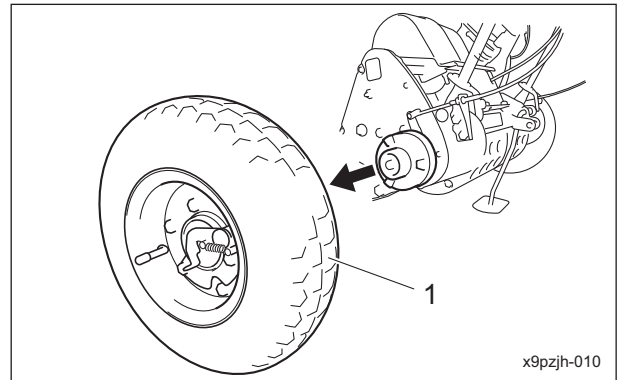
2. 車輪取り付け板のレバーを解除位置にスライドさせてください。



移動タイヤの脱着_002

1	移動タイヤ
2	車輪取り付け板

3. 移動タイヤを手前に引っ張り、取り外してください。



移動タイヤの脱着_003

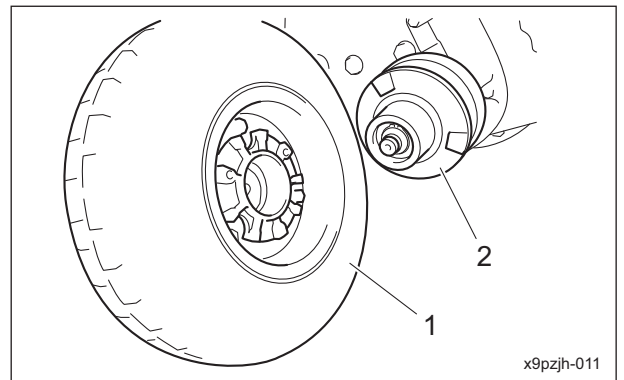
1	移動タイヤ
---	-------

4. 反対側の移動タイヤも同様の手順で取り外してください。

移動タイヤの取り付け：

重要

ホイールハブと移動タイヤには、はめ合いの凹凸部があります。形状を確認して取り付けてください。



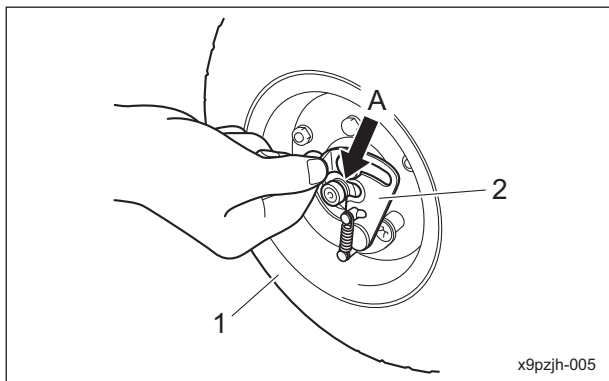
移動タイヤの脱着_004

1	移動タイヤ
2	ホイールハブ

取り扱い説明

重要

車輪取り付け板がドラム軸の溝にはまっているか確認してください。
はまっていないと脱輪する恐れがあります。



移動タイヤの脱着_005

1	移動タイヤ
2	車輪取り付け板
A	溝

移動タイヤの取り付けは、取り外しの逆の手順で行ってください。

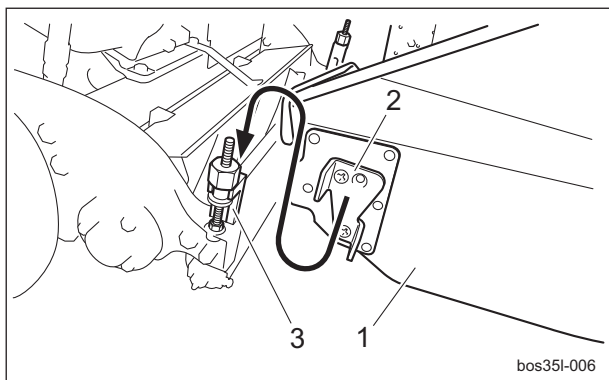
グラスキャッチャーの脱着

注意

グラスキャッチャーの脱着はエンジンを停止して行ってください。

グラスキャッチャーの取り外し：
グラスキャッチャーを上を持ち上げ、グラスキャッチャーの左右の掛け金をローラーブラケットから取り外してください。

グラスキャッチャーの取り付け：
グラスキャッチャーの左右の掛け金をローラーブラケットに掛けて取り付けてください。



グラスキャッチャーの脱着_001

1	グラスキャッチャー
2	掛け金
3	ローラーブラケット

運搬

運搬方法

注意

機械を積み降ろしするときは、滑らない靴を着用し、ゆっくりと走行してください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ロープをエンジンに掛けないでください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ワイヤーを曲げないように注意してください。

本機をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。
積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。
トラックやトレーラーに積載して移動するときは、本機のエンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。
あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。

メンテナンス上の注意	Page 5-2
メンテナンス時の機械姿勢	Page 5-2
メンテナンススケジュール	Page 5-3
規定値	Page 5-5
グリースアップ	Page 5-6
グリースアップについて	Page 5-6
グリースアップ位置	Page 5-6
メンテナンス・モア	Page 5-8
カッター調節スプリングの調整	Page 5-8
カム調整	Page 5-8
リールカッターのバックラッピング	Page 5-9
リールカッターの研磨	Page 5-11
リールカッターの交換	Page 5-12
ベッドナイフの交換	Page 5-13
ベッドナイフ台の脱着	Page 5-13
ベッドナイフの脱着	Page 5-18
カバー小（左）の脱着	Page 5-19
メンテナンス・本体	Page 5-20
ブレーキの調整	Page 5-20
エンジンクラッチ部の調整	Page 5-21
エアクリーナーの交換	Page 5-22
エンジンオイルの交換	Page 5-22
長期保管	Page 5-22
長期保管について	Page 5-22
刈り込みの不具合対処	Page 5-23
カジリの発生	Page 5-23
スジの発生（ブロック状の段差）	Page 5-23
スジの発生（白く帯状に見える）	Page 5-24
刃が切れない	Page 5-25
刃合わせの片ぎき	Page 5-26

メンテナンス

メンテナンス上の注意

⚠ 注意

実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。

⚠ 注意

メンテナンスを行う際に必要な工具は、目的にあったものを使用してください。

⚠ 注意

常に安全に、最高の性能でお使い頂くために、交換部品やアクセサリは BARONESS 純正部品をお求めください。
純正部品以外の部品をご使用になった場合、製品保証を受けられなくなる場合がありますので、ご注意ください。

メンテナンス時の機械姿勢

重要

機械のメンテナンスを行うときなど、ハンドル側を下にして倒した姿勢で長時間放置すると、エンジンの燃焼室にエンジンオイルが入り、エンジン不調の原因となることがありますので注意してください。
また、ハンドルを立てた位置に戻してからオイルが戻るのに十分な時間を確保するため、10分たってからエンジンを始動してください。

メンテナンススケジュール

LM22GK/LM26GK/LM26TK

メンテナンススケジュールは、以下のとおりです。

○・・・点検、調整、補給、清掃

●・・・交換(初回)

△・・・交換

メンテナンス項目		作業前	作業後	10時間ごと	20時間ごと	25時間ごと	50時間ごと	100時間ごと	300時間ごと	500時間ごと	1年ごと	2年ごと	必要に応じて	備考
エンジン	*2 各種ボルトナットの締め付け	○												
	*2 燃料レベルの点検	○												
	*2 液漏れ(油、燃料)の点検	○												
	*2 エンジンオイルレベルの点検	○												
	*2 エアクリーナーの点検		○											必要に応じて交換
	*2 エンジンおよびマフラー・排気管周辺の清掃		○											
	*2 エンジンオイルの交換					●	△							初回 25h
	*2 点火プラグの点検							○						必要に応じて交換
	*2 燃料ストレーナー(コック)の清掃							○						
	*1 燃料タンク・燃料ろ過網の清掃								○					
	*1 バルブクリアランスの点検・調整								○					
	*1 燃焼室のカーボン除去								○					
	燃料ホースとクランプバンドの点検										○			必要に応じて交換
	本体	タイヤの空気圧と状態の点検	○											
各部の損傷の点検		○												
ボルト、ナットの締め付けの点検		○												
メインクラッチレバーの作動の点検		○												
ブレーキの動作の点検		○												「ブレーキの点検」「ブレーキの調整」参照
ハンドル位置の調整		○												「ハンドルの調整」参照
カバーの状態の点検		○												
本体外装部の清掃			○											
可動部のグリースアップと注油				○			○							「グリースアップ位置」参照
エンジンクラッチスプリングの調整												○		「エンジンクラッチ部の調整」参照
ブレーキワイヤーの点検									○					「ワイヤーの点検」参照 必要に応じて交換
電気配線の状態(損傷、汚損、接続部の緩み)の点検										○				

メンテナンス

メンテナンス項目		作業前	作業後	10時間ごと	20時間ごと	25時間ごと	50時間ごと	100時間ごと	300時間ごと	500時間ごと	1年ごと	2年ごと	必要に応じて	備考	
本体	エンジンクラッチのすき間の調整												○	「エンジンクラッチ部の調整」参照 1年ごと点検、必要に応じて調整	
	スロットルワイヤーの点検												○	「ワイヤーの点検」参照	
	メインクラッチワイヤーの点検												○	「ワイヤーの点検」参照	
モア部	リールカッターとベッドナイフの状態の点検	○												「リールカッターとベッドナイフの点検」参照	
	カバーの状態の点検	○													
	ローラーの状態の点検	○													
	刃合わせ	○												「刃合わせ調整」参照	
	刈高の確認	○												「刈高の調整」参照	
	各部の損傷の点検	○													
	ボルト、ナットの締め付けの点検	○													
	モア部の清掃		○												
	グリースアップ			○			○								「グリースアップ位置」参照
	ギヤケース内ベアリングの交換											△			
	前ローラーベアリングの交換											△			
	ギヤケース内オイルシールの交換											△			
	前ローラーオイルシールの交換											△			
ギヤケース内グリースの交換											△				
ベッドナイフのカムブッシュの掃除とグリースの塗布													○		
カッター調節スプリングの調整													○	「カッター調節スプリングの調整」参照	
バックラッピング		○												「リールカッターのバックラッピング」参照	
刃（リールカッターとベッドナイフ）の研磨													○	必要に応じて刃の再研磨または交換	

・*1：点検整備は、お近くのバロネス販売店に相談の上、その指示に従ってください。

・*2：エンジンの取扱説明書を参照ください。

・消耗品については、保証値ではありません。

規定値

燃料タンク容量	2.5 dm ³ (2.5 L)	ガソリン
エンジンオイル容量	0.5 dm ³ (0.5 L)	SAE30 (API サービス分類 SE 級以上)
スパークプラグ	-	NGK BP2HS
タイヤ空気圧	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)	4.10/3.50 - 6
カッター調節スプリング	86.5 mm (34.06 in)	コイルスプリングの長さ
リールカッター軸ベアリング予圧スプリング	11.5 mm (0.453 in)	スプリングの全長
リールカッター回転トルク	0.8 - 1.0 N・m (8 - 10 kgf・cm)	
エンジンクラッチ	0.5 - 1.0 mm (0.020 - 0.039 in)	エンジンクラッチとクラッチフェーシングのすき間
クラッチ板作動量	1.0 - 2.0 mm (0.039 - 0.079 in)	
クラッチスプリング	35.0 mm (1.38 in)	スプリングの全長

メンテナンス

グリースアップ

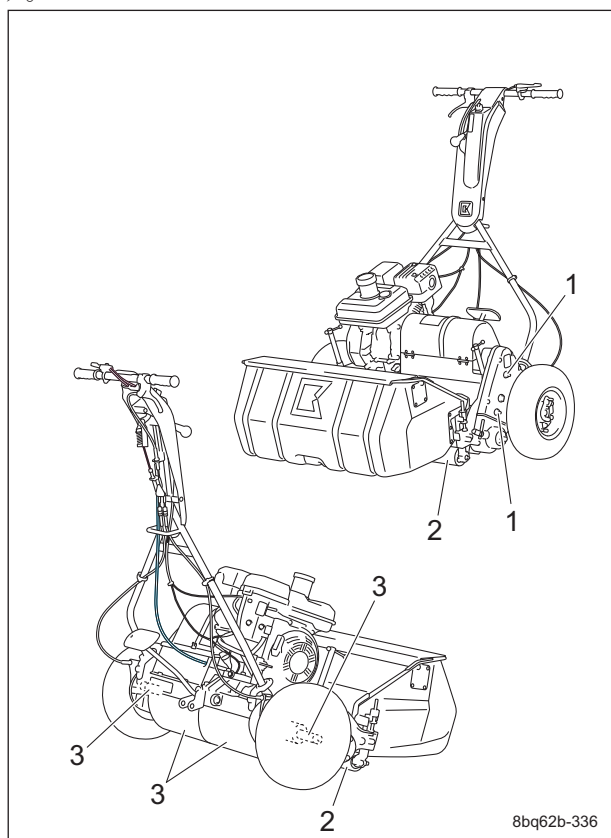
グリースアップについて

可動部がグリース切れにより、固着したり、破損したりする可能性がありますので、グリースアップの必要性があります。

メンテナンススケジュールに従って、ウレア系2号グリースでグリースアップしてください。その他指定のグリース、潤滑油を使用する場所は、「グリースアップ位置」に記載されています。指定のグリース、潤滑油でグリースアップしてください。

グリースアップ位置

次の場所にグリースニップルが取り付けられています。

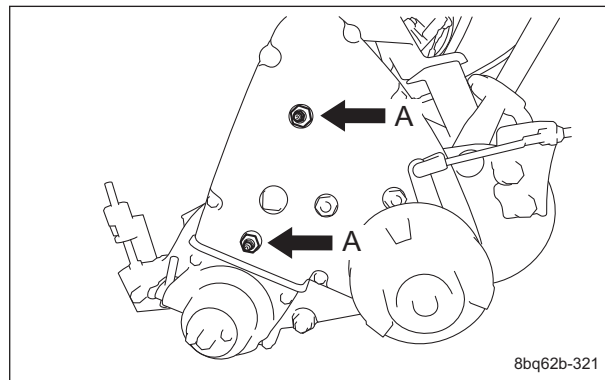


グリースアップ位置_001

	部位	注油箇所数	注油時間	
1	左フレーム伝導部	2	A	-
2	前ローラー部	2	-	B
3	ドラム軸受け部	4	-	B

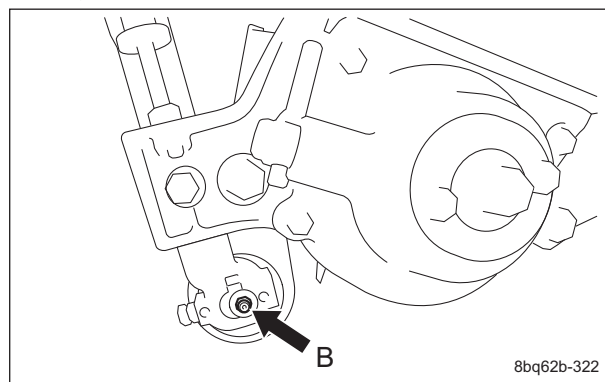
Aは10時間ごと、Bは50時間ごとにグリースアップしてください。

1. 左フレーム伝導部
2か所あります。



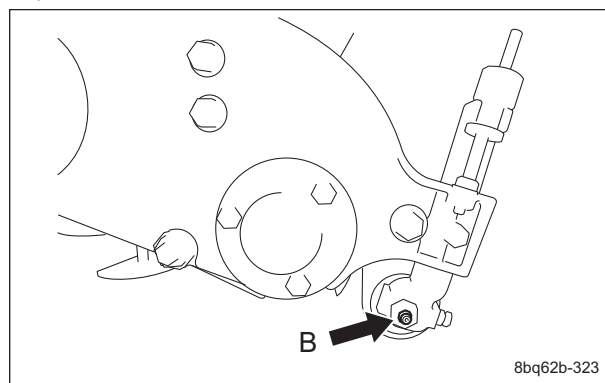
グリースアップ位置_002

2. 前ローラー部
左右に1か所ずつあります。
左側



グリースアップ位置_003

右側

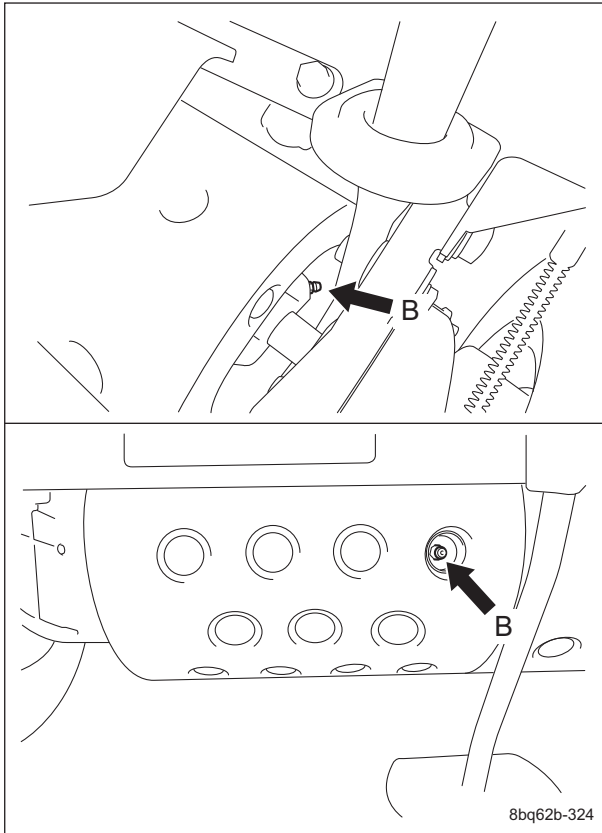


グリースアップ位置_004

3. ドラム軸受け部

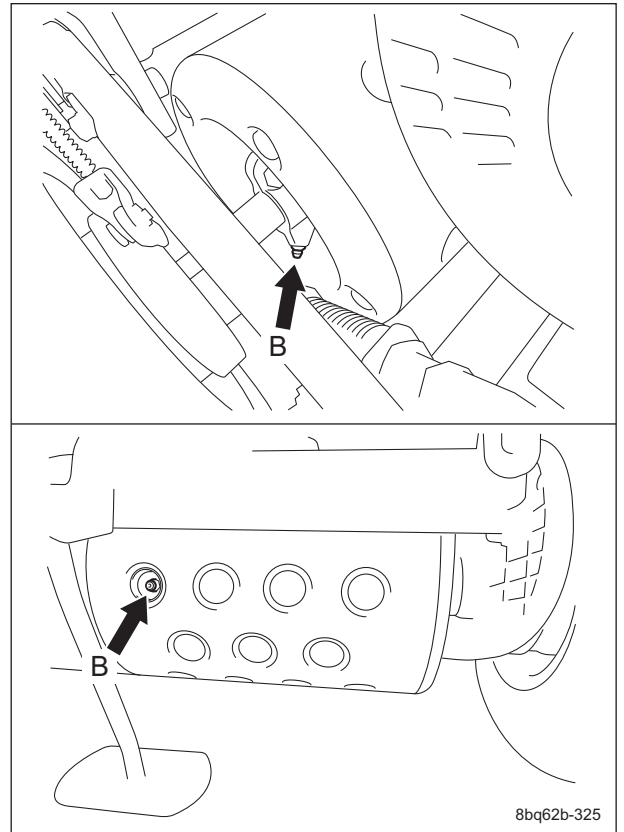
左右に2か所ずつあります。

左側



グリースアップ位置_005

右側



グリースアップ位置_006

メンテナンス

メンテナンス・モア

カッター調節スプリングの調整

⚠ 注意

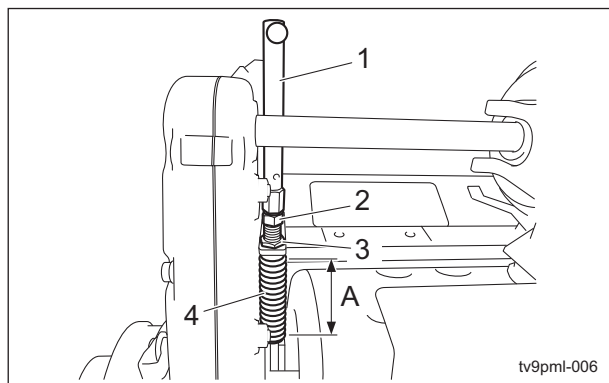
リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切る恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。

⚠ 注意

リールカッターやベッドナイフを取り扱うときは、手袋などで手を保護してください。ただし、リールカッターを回すときに手袋などが巻き込まれ、手や指を切る恐れがありますので、十分注意してください。

リールカッター径が小さくなったら、カッター調節スプリングの調整をしてください。

1. 刃合わせ調整を行ってください。
2. カッター調節ロックナットを緩めてください。
3. カッター調節ネジ付パイプでカッター調節スプリングの長さが 86.5 mm (34.06 in) になるように調整してください。
4. カッター調節ロックナットを締め付けてください。



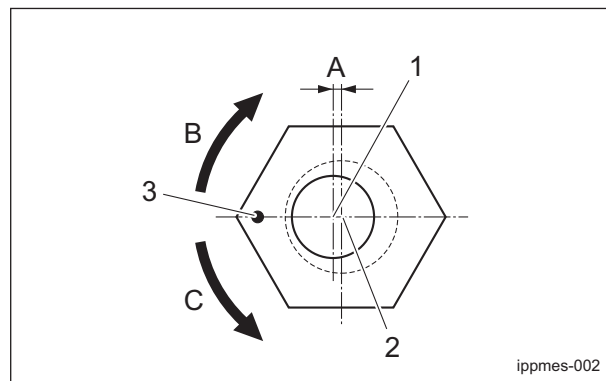
カッター調節スプリングの調整_001

1	カッター調節金
2	カッター調節ネジ付パイプ
3	カッター調節ロックナット
4	カッター調節スプリング
A	86.5 mm (34.06 in)

参考：

下図は左フレーム側から見た図となります。右フレーム側は左右反転された状態となります。リールカッターとベッドナイフの左フレーム側にすき間ができた場合：

1. ロックナットを緩め、左カムブッシュをすき間の寸法だけ右に回してください。
ベッドナイフを 0.1 mm (0.004 in) 上げる場合は、左カムブッシュを 30° 右へ回してください。
2. 調整後、ロックナットをしっかりと締め付けてください。
リールカッターとベッドナイフの右フレーム側にすき間ができた場合：
1. ロックナットを緩め、右カムブッシュをすき間の寸法だけ左に回してください。
2. 調整後、ロックナットをしっかりと締め付けてください。



カム調整_001

1	カッターピン中心
2	カムブッシュ中心
3	ポンチマーク
A	0.1 mm (0.004 in)
B	ベッドナイフ上がる
C	ベッドナイフ下がる

カム調整

ベッドナイフ左右のカムブッシュを回転させ、ベッドナイフを最大 0.3 mm (0.012 in) 上下できます。

リールカッターとベッドナイフの刃先の平行が出ていない場合に利用します。

リールカッターのバックラッピング

バックラッピングとは、包丁の刃を研ぐようなもので、リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れづらくなった場合、ペースト状の研磨剤を塗って、リールカッターを逆回転させながら刃先を研ぐ作業のことです。

しかし、バックラッピングは応急処置的なもので、完全に切れ味は戻りません。

リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れ味が悪くなった場合は、以下の手順で、バックラッピングを行ってください。

注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切る恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。

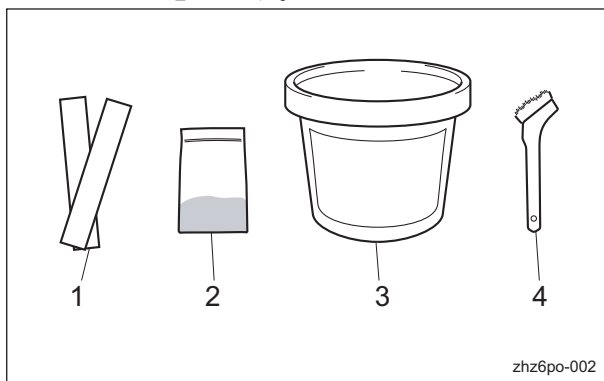
注意

バックラッピング作業中はリールカッターが回転しています。可動部に手足を近づけないでください。

注意

二人以上でバックラッピング作業を行わないでください。

1. 新聞紙を短冊型に裂いたもの、バックラッピングパウダーをオイルで混合した研磨剤または、ジェルコンパウンド（バロネス純正研磨剤）、ブラシを用意します。



リールカッターのバックラッピング_001

1	新聞紙
2	バックラッピングパウダー
3	ジェルコンパウンド
4	ブラシ

参考：

研磨剤の混合比は体積比で、バックラッピングパウダー（#200 - #400）1：オイル3 - 4です。

2. ラッピングマシンまたは、ラッピングハンドルを用意します。

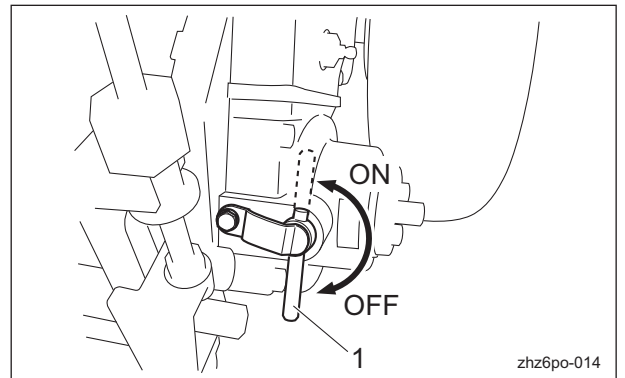
注意

リールカッターやベッドナイフを取り扱うときは、手袋などで手を保護してください。ただし、リールカッターを回すときに手袋などが巻き込まれると、手や指を切る恐れがありますので十分注意してください。

重要

切れ味は、刈り込み後の刃合わせ状態で調べてください。

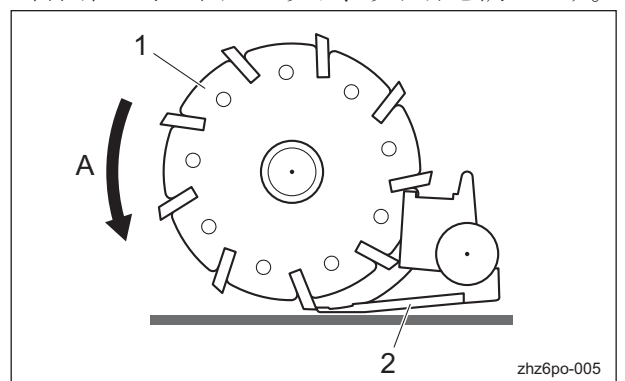
3. エンジンを停止してください。
4. リールクラッチレバーを「ON」の位置にしてください。



リールカッターのバックラッピング_002

1 リールクラッチレバー

5. 短冊型に裂いた新聞紙1 - 2枚をリールカッターとベッドナイフの間に90°に入れ、モアユニットを左から見てリールカッターを反時計回転に手で回して切り、切れ味を調べます。

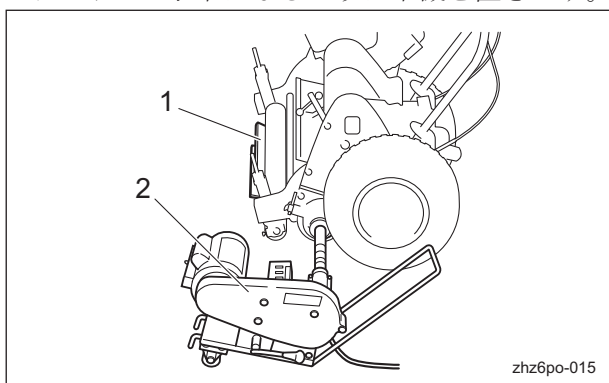


リールカッターのバックラッピング_003

メンテナンス

1	リールカッター
2	ベッドナイフ
A	回転方向

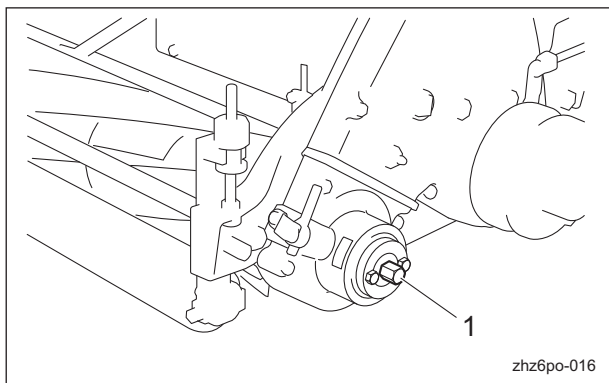
- リールカッターの全面（左右3 - 4か所程度）にわたり、切れ味を調べます。
- 切れ味を調べ、切れ味の良いところにチョークなどで印を付けます。
- ローラー受けやジャッキスタンドなどで、ベッドナイフが水平になるように本機を置きます。



リールカッターのバックラッピング_004

1	ローラー受け
2	ラッピングマシン

- ラッピングマシンまたは、ラッピングハンドルを本機のラッピングボルトに接続します。



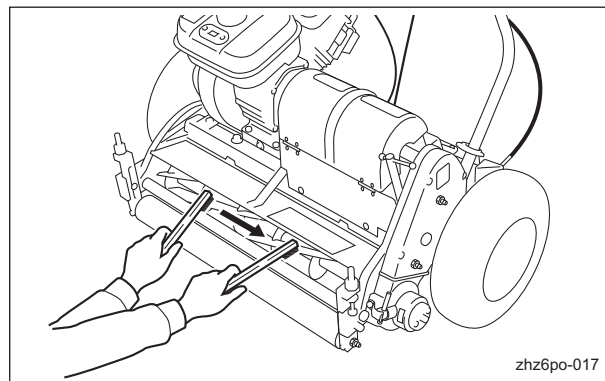
リールカッターのバックラッピング_005

1	ラッピングボルト
---	----------

- モアユニットを左から見てリールカッターを時計回転（逆回転）に回します。
 - ラッピングマシンのスイッチを入れる。
 - または、ラッピングハンドルを回す。

重要

リールカッターは（正面から見て）右側が左側より、早く摩耗するため、研磨剤を塗布するときは、必ず左から右へブラシを動かしてください。



リールカッターのバックラッピング_006

- ブラシに研磨剤をつけ、チョークの印を目印にしてリールカッターの切れ味の良い部分の上面に均一に塗布します。（切れ味の悪い箇所には絶対に塗らないでください。）
- しばらく回転させておき、接触音がしなくなったら、リールカッターの回転を停止させます。
 - ラッピングマシンのスイッチを切る。
 - または、ラッピングハンドルを回すのをやめる。
- ラッピングマシンまたは、ラッピングハンドルを取り外します。
- リールカッターに塗布した研磨剤を洗い流すか、ウエスなどでふき取り、切れ味を調べます。
- 手順5. - 14.の作業を繰り返し、リールカッターの全面（左右3 - 4か所程度）が均一な切れ味になるようにバックラッピングします。
- 最後に研磨剤を、リールカッターの刃先全幅に塗って、仕上げのバックラッピングを行います。

重要

洗浄するときは、エンジンや電装品に水がかからないように注意してください。

- 洗浄機などで研磨剤をきれいに洗い流します。
- 切れ味の確認をしながら、刃合わせ調整を行ってください。

リールカッターの研磨

⚠ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切る恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。

⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切る恐れがありますので、手袋を着用してください。

リールカッターの研磨とは、リールカッターの真円を出す作業と、リリーフ（2番）を作る作業のことです。

バックラッピングを行っても、切れ味が戻らない場合や、リリーフ（2番）がなくなったときにする作業です。

バックラッピングを行っても切れ味が戻らない場合や、リリーフ（2番）がなくなり、ベタ当たりしバックラッピングに時間がかかるようになった場合は、研磨を行ってください。

また、リールカッターが摩耗して円錐形になってしまった場合は、円筒研磨し、円筒形に戻してください。

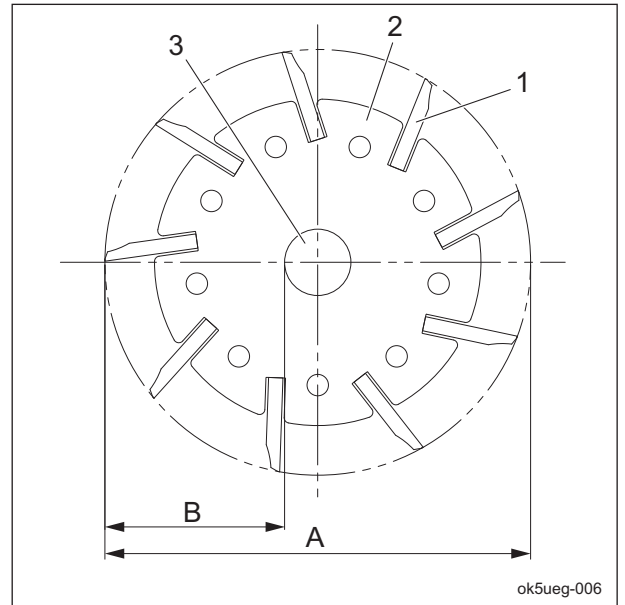
リールカッターの研磨は、購入販売店または弊社までご依頼ください。

リールカッターは、研磨後、リールカッターの外径寸法が使用限界寸法以上残る場合、研磨を行うことができます。

新品		使用限界	
寸法：A (リールカッター外径)	寸法：B (刃先外径部-リールカッター軸外径部)	寸法：A (リールカッター外径)	寸法：B (刃先外径部-リールカッター軸外径部)
128 mm	51.3 mm	118 mm	46.3 mm

参考：

リールカッター軸の外径寸法は、25.4 mm です。



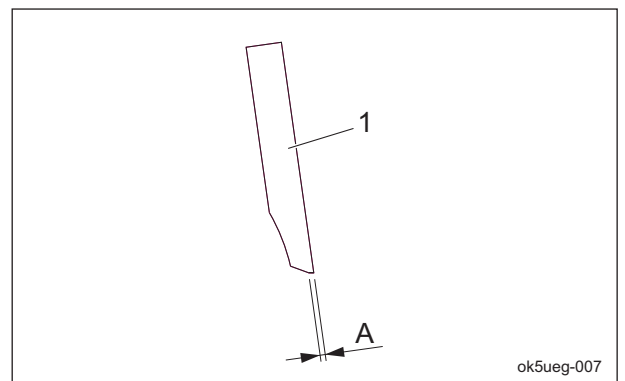
リールカッターの研磨_001

1	リールカッター刃
2	リールカッター円盤
3	リールカッター軸
A	リールカッター外径
B	刃先外径部-リールカッター軸外径部

リールカッターが以下の状態になった場合は、研磨が必要です。

1. リールカッターの外径研磨幅（ベッドナイフ接触部の長さ）が、使用限界寸法以上になった場合。

リールカッター外径寸法（新品）	リールカッター外径研磨幅の使用限界寸法
128 mm	2.5 mm（メーカー推奨）



リールカッターの研磨_002

1	リールカッター刃
A	リールカッター外径研磨幅

2. 刃先が極端に丸くなり、バックラッピングでは刃のエッジが立てられない状態になった場合。

メンテナンス

3. リールカッターが摩耗して円錐形になり、刃合わせ調整ができなくなった場合。

リールカッターの交換

⚠ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切る恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。

⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切る恐れがありますので、手袋を着用してください。

リールカッターの交換の基準は、以下のとおりです。

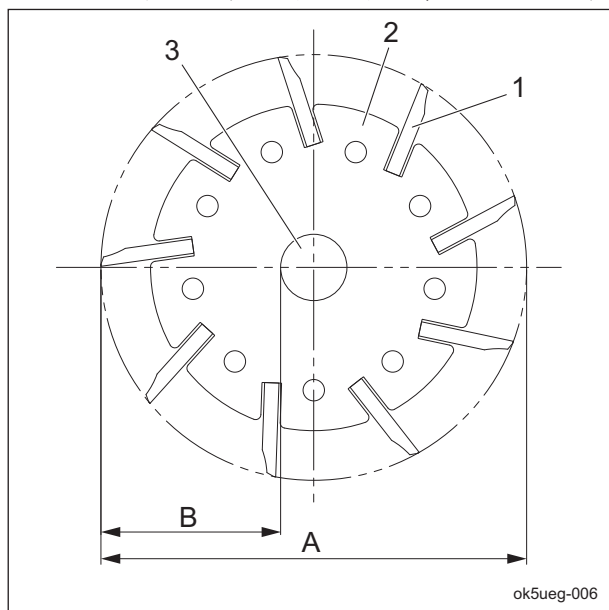
ただし、基準値は目安であり、新品状態のリールカッターの性能を保証するものではありません。

1. リールカッターの外径寸法が使用限界寸法以下になった場合。

新品		使用限界	
寸法：A (リールカッター外径)	寸法：B (刃先外径部-リールカッター軸外径部)	寸法：A (リールカッター外径)	寸法：B (刃先外径部-リールカッター軸外径部)
128 mm	51.3 mm	118 mm	46.3 mm

参考：

リールカッター軸の外径寸法は、25.4 mm です。



リールカッターの交換_001

1	リールカッター刃
2	リールカッター円盤
3	リールカッター軸
A	リールカッター外径
B	刃先外径部-リールカッター軸外径部

リールカッターの取り付け

⚠ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切る恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。

⚠ 注意

リールカッターやベッドナイフを取り扱うときは、手袋などで手を保護してください。ただし、リールカッターを回すときに手袋などが巻き込まれ、手や指を切る恐れがありますので、十分注意してください。

⚠ 注意

締め付けトルク一覧を参照してください。異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けなどで生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。

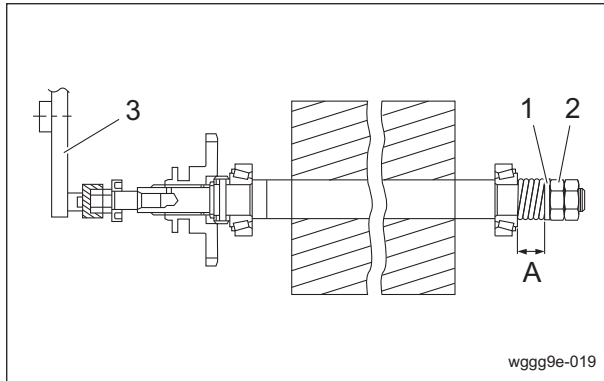
リールカッター左右のベアリングとオイルシールは以下の要領で交換します。

重要

ベアリングは 30204JRP6 を使用してください。

- ベアリングとオイルシールにグリース（エクセライト EP No. 2）を充填してください。
- リールカッターをフレームに取り付けます。
- スプリング長さが、11.5 mm (0.453 in) になる位置までナットを締め込み、ロックしてください。
参考：
スプリングの圧力によって一定の力で予圧できます。

4. トルクレンチで、リールカッターの回転トルクを測定してください。
規定値は、0.8 - 1.0 N・m (8 - 10 kgf・cm) です。



リールカッターの取り付け_001

1	座金
2	左ねじナット
3	トルクレンチ
A	11.5 mm (0.453 in)

ベッドナイフの交換

⚠ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切る恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。

⚠ 注意

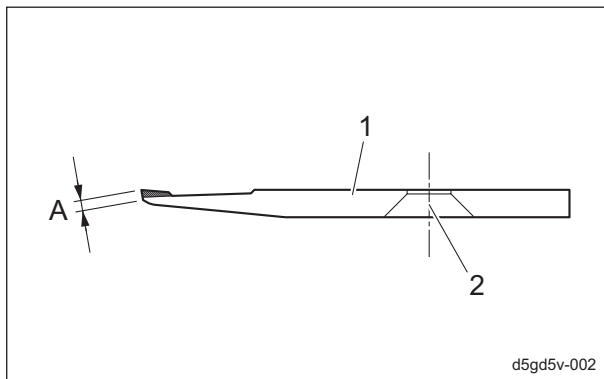
刃物に触れる場合は、手を切る恐れがありますので、手袋を着用してください。

ベッドナイフの交換の基準は、以下のとおりです。

1. リールカッターを研磨した場合。
2. リールカッターを交換した場合。
3. ベッドナイフが摩耗した場合。

ムク刃

ベッドナイフの前面（フロントフェイス）が無くなる前に交換してください。

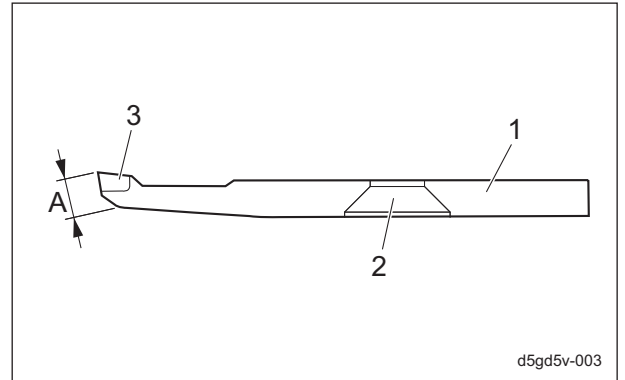


ベッドナイフの交換_001

1	ベッドナイフ
2	取り付け穴
A	前面（フロントフェイス）

ハイス付刃

ベッドナイフのチップが無くなる前に交換してください。



ベッドナイフの交換_002

1	ベッドナイフ
2	取り付け穴
3	チップ
A	前面（フロントフェイス）

ベッドナイフ台の脱着

ベッドナイフ台の取り外し

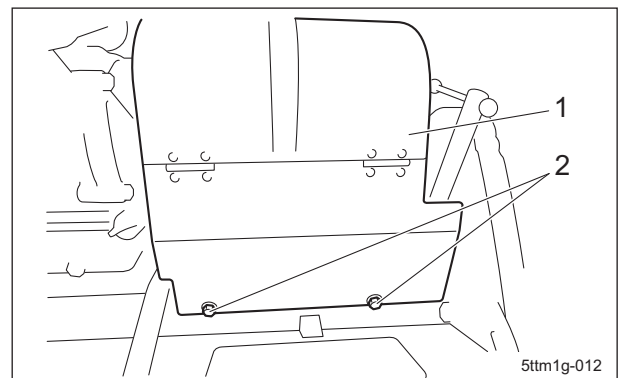
⚠ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切る恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。

⚠ 注意

機械前部を持ち上げて作業するときは落下の危険があります。確実に機械をサポートしてください。

1. クラッチカバーの2本のボルトを取り外してください。

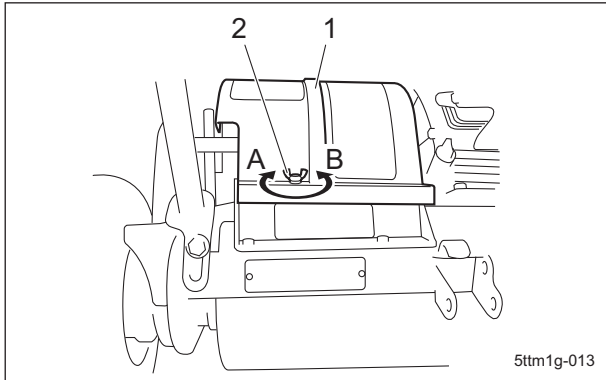


ベッドナイフ台の取り外し_001

メンテナンス

1	クラッチカバー
2	ボルト

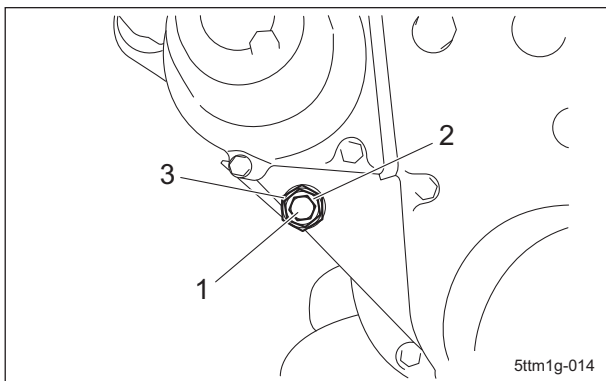
2. 固定ボルトを緩め、クラッチカバー取り外してください。



ベッドナイフ台の取り外し_002

1	クラッチカバー
2	固定ボルト
A	締まる
B	緩む

3. 左右のロックナットを緩め、カッターピンを取り外してください。



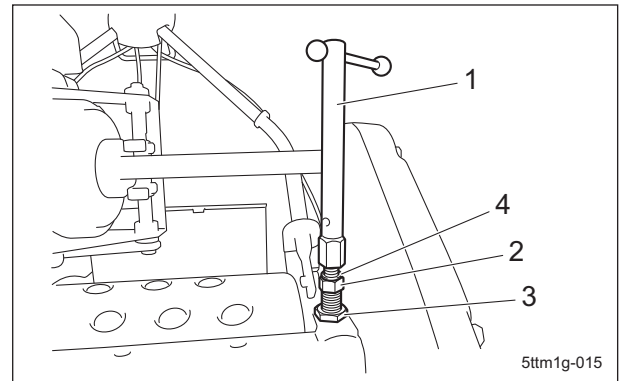
ベッドナイフ台の取り外し_003

1	カッターピン
2	ロックナット
3	カムブッシュ

⚠ 注意

カッター調節金を取り外すと、ベッドナイフ台COMPが外れ、落ちてくる危険があります。

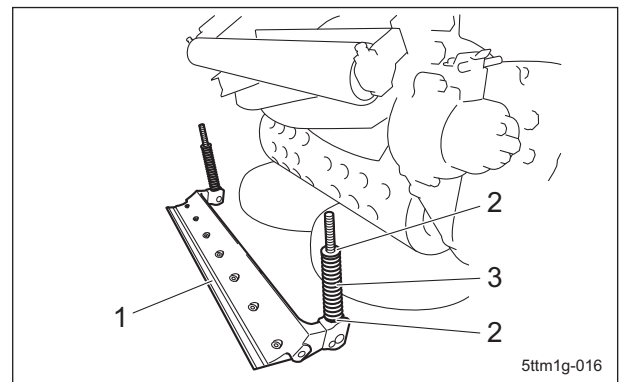
4. 左右のカッター調節金を同時に緩め、取り外してください。



ベッドナイフ台の取り外し_004

1	カッター調節金
2	カッター調節ネジ付パイプ
3	カッター調節ロックナット
4	座金

5. ベッドナイフ台COMPを取り外してください。
6. 左右のスプリングとスプリング受けを取り外してください。



ベッドナイフ台の取り外し_005

1	ベッドナイフ台COMP
2	スプリング受け
3	スプリング

ベッドナイフ台の取り付け

注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切る恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。

注意

リールカッターやベッドナイフを取り扱うときは、手袋などで手を保護してください。ただし、リールカッターを回すときに手袋などが巻き込まれ、手や指を切る恐れがありますので、十分注意してください。

注意

機械前部を持ち上げて作業するときは落下の危険があります。確実に機械をサポートしてください。

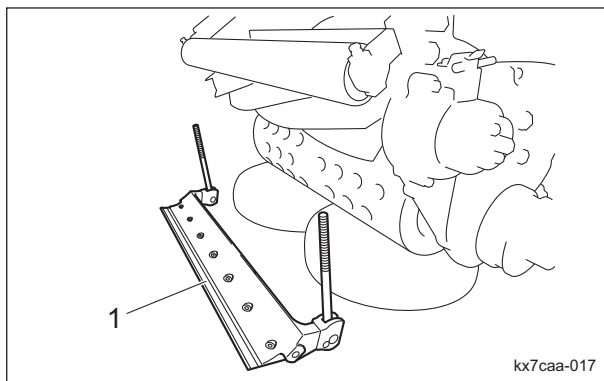
注意

締め付けトルク一覧を参照してください。異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けなどで生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。

重要

モアユニットのフレームにカムブッシュが入っていますので、固着が無いか確認してください。

1. ベッドナイフ台 COMP のカッター調節ボルトをカッター調節ネジ付パイプに差し込んでください。



ベッドナイフ台の取り付け_001

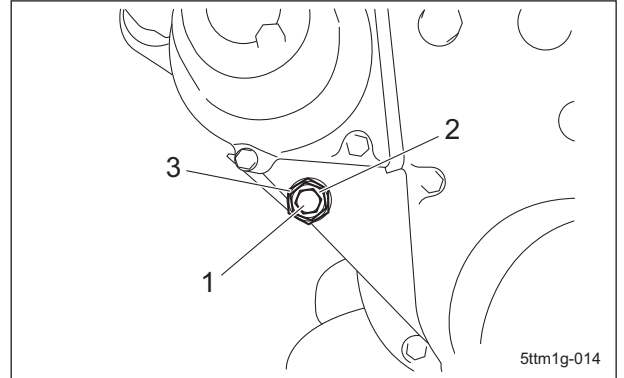
- | | |
|---|--------------|
| 1 | ベッドナイフ台 COMP |
|---|--------------|

参考：
この時点では、左右のスプリングとスプリング受けは取り付けないでください。

重要

ベッドナイフ台がリールカッターと平行になるように取り付けてください。

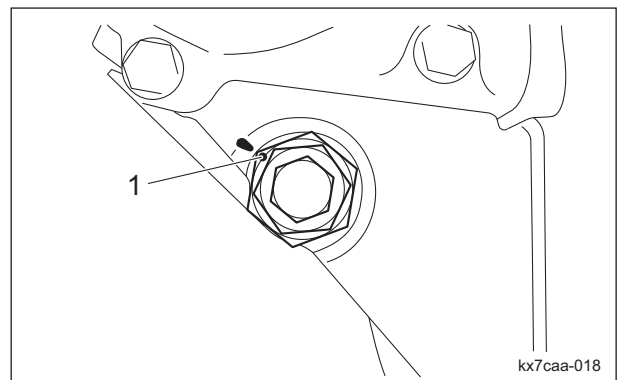
2. 左右のカッターピンを仮に取り付けてください。



ベッドナイフ台の取り付け_002

- | | |
|---|--------|
| 1 | カッターピン |
| 2 | ロックナット |
| 3 | カムブッシュ |

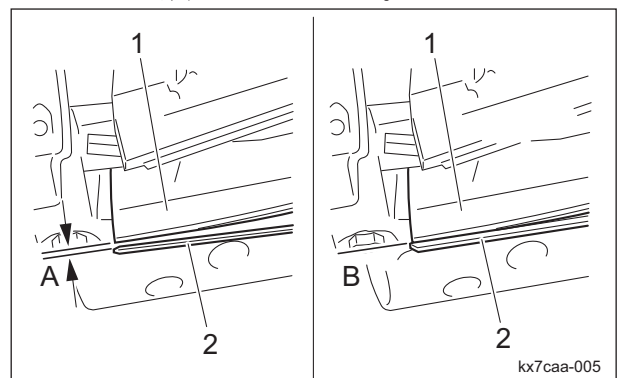
3. 左右のカムブッシュのポンチマークを進行方向側に合わせてください。



ベッドナイフ台の取り付け_003

- | | |
|---|--------|
| 1 | ポンチマーク |
|---|--------|

4. リールカッターにベッドナイフが接触していることを確認してください。

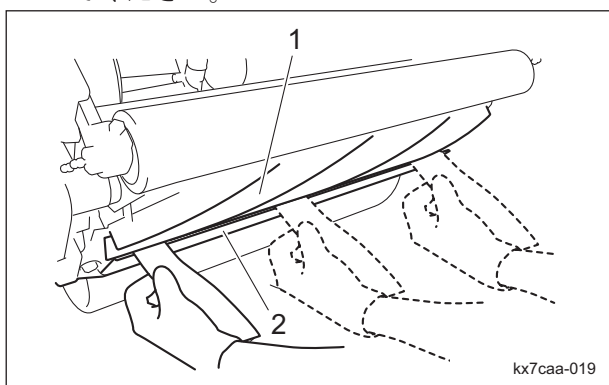


ベッドナイフ台の取り付け_004

メンテナンス

1	リールカッター
2	ベッドナイフ
A	すき間あり
B	すき間なし

5. 短冊型に裂いた新聞紙 1 - 2 枚をリールカッターとベッドナイフの間に 90° に入れ、モアユニットを左から見てリールカッターを反時計回転に手で回して、リールカッターの全面（左右 3 - 4 か所程度）にわたり、切れ味を調べてください。



ベッドナイフ台の取り付け_005

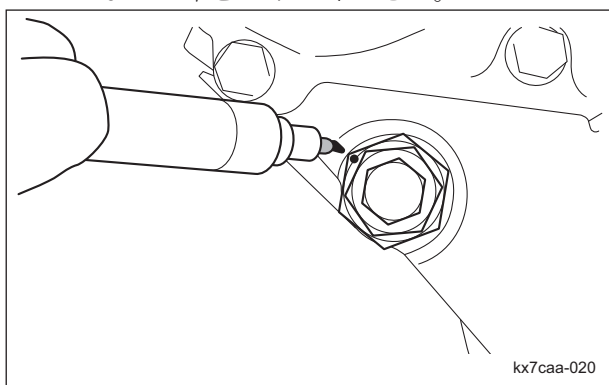
1	リールカッター
2	ベッドナイフ

6. 両端が切れるように、カムブッシュの位置を調整してください。

「カム調整」(Page 5-8)

参考：

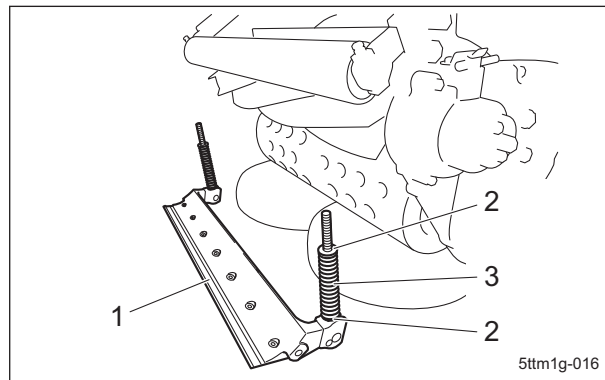
調整後、ポンチマークの位置を本機にマーカーなどで印をつけてください。



ベッドナイフ台の取り付け_006

7. 仮に取り付けたカッターピンを取り外してください。
8. ベッドナイフ台 COMP を取り外してください。

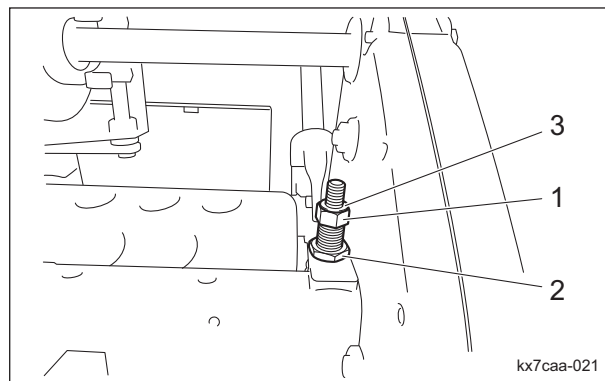
9. ベッドナイフ台 COMP に左右のスプリングとスプリング受けを取り付けてください。



ベッドナイフ台の取り付け_007

1	ベッドナイフ台 COMP
2	スプリング受け
3	スプリング

10. ベッドナイフ台 COMP のカッター調節ボルトをカッター調節ネジ付パイプに差し込んでください。
11. 座金を取り付けてください。



ベッドナイフ台の取り付け_008

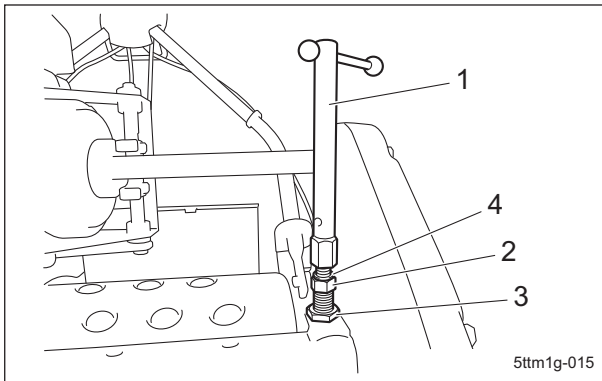
1	カッター調節ネジ付パイプ
2	カッター調節ロックナット
3	座金

重要

ベッドナイフ台がリールカッターと平行になるように取り付けてください。

締め付けの際、フレームとベッドナイフ台のカッターピン取り付け穴の位置が一致するように調整してください。

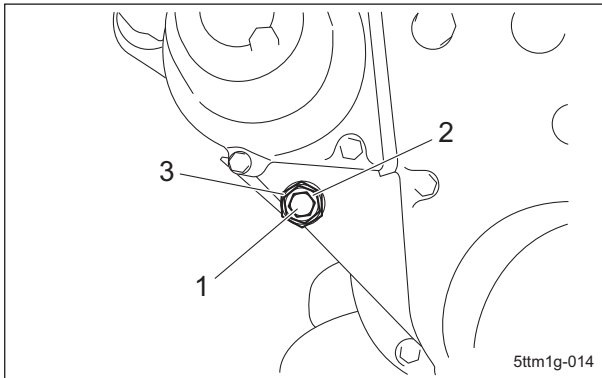
12. 左右のカッター調節金を同時に締め付けてください。



ベッドナイフ台の取り付け_009

1	カッター調節金
2	カッター調節ネジ付パイプ
3	カッター調節ロックナット
4	座金

13. 左右のカッターピンを取り付けてください。



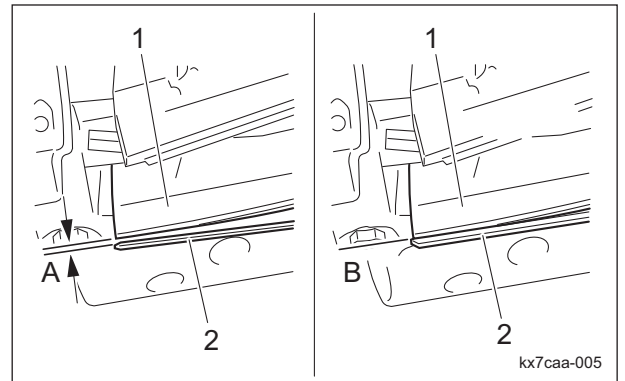
ベッドナイフ台の取り付け_010

1	カッターピン
2	ロックナット
3	カムブッシュ

重要

カムブッシュが印をつけた位置から動かないようにしてください。

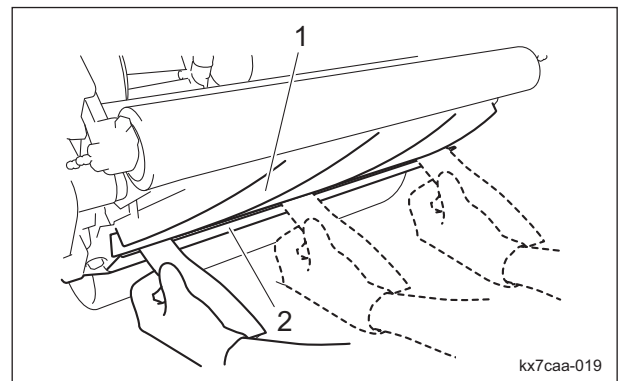
- 左右のカッターピンのロックナットを締め付けてください。
- リールカッターにベッドナイフが接触していることを確認してください。



ベッドナイフ台の取り付け_011

1	リールカッター
2	ベッドナイフ
A	すき間あり
B	すき間なし

- 短冊型に裂いた新聞紙1 - 2枚をリールカッターとベッドナイフの間に90°に入れ、モアユニットを左から見てリールカッターを反時計回転に手で回して、リールカッターの全面(左右3 - 4か所程度)にわたり、切れ味を調べてください。



ベッドナイフ台の取り付け_012

1	リールカッター
2	ベッドナイフ

- 両端が切れるように、カッター調節金で調整してください。
「刃合わせ調整」(Page 4-10)
- クラッチカバーを取り付けてください。

メンテナンス

ベッドナイフの脱着

ベッドナイフの取り外し

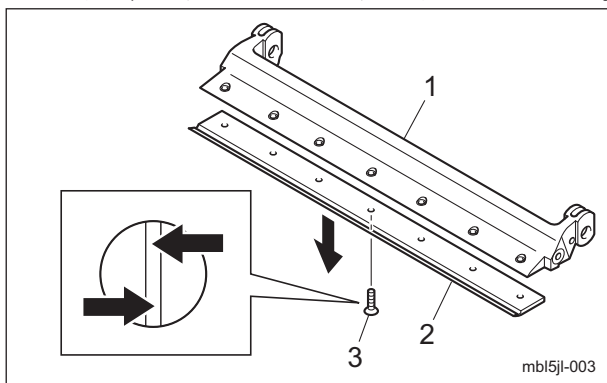
注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切る恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。

注意

機械前部を持ち上げて作業するときは落下の危険があります。確実に機械をサポートしてください。

1. ベッドナイフ台 COMP を取り外してください。
2. ベッドナイフ台 COMP を安定した台の上に乗せてください。
3. ショックドライバーまたはポンチでねじを取り外し、ベッドナイフを取り外してください。



ベッドナイフの取り外し_001

1	ベッドナイフ台
2	ベッドナイフ
3	ねじ

ベッドナイフの取り付け

注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切る恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。

注意

機械前部を持ち上げて作業するときは落下の危険があります。確実に機械をサポートしてください。

注意

締め付けトルク一覧を参照してください。異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けなどで生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。

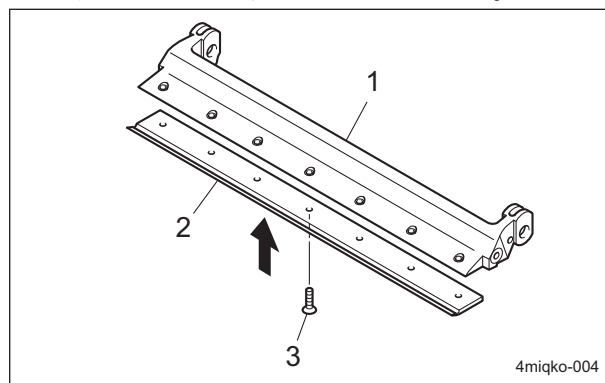
重要

ベッドナイフ台のナイフ取付面をキズつけないように注意してください。サビや汚れを落としてください。

重要

ねじは新品に交換してください。

1. ショックドライバーでねじを均一に締め付け、ベッドナイフを取り付けてください。

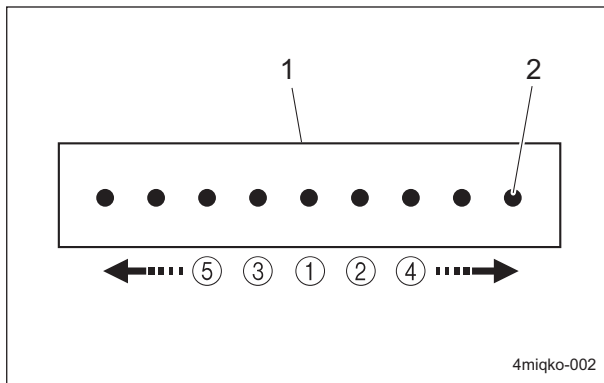


ベッドナイフの取り付け_001

1	ベッドナイフ台
2	ベッドナイフ
3	ねじ

参考：

ベッドナイフの取り付けねじは、初めに中心をねじ止めし、以後左右の順にねじ止めしてください。



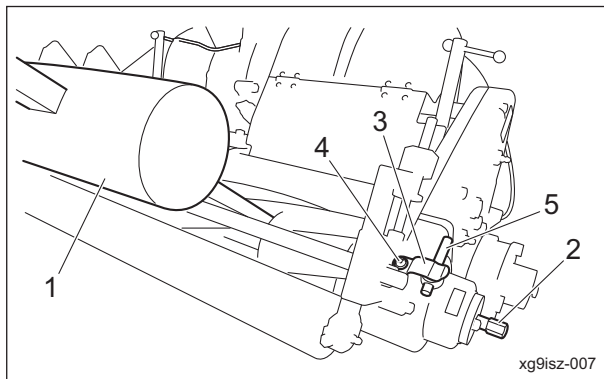
ベッドナイフの取り付け_002

1	ベッドナイフ
2	ねじ

カバー小（左）の脱着

カバー小（左）の取り外し

1. 木ハンマーの柄などでリールカッターが回らないようにしてください。
2. ラッピングボルトを取り外してください。
3. クラッチ押えバネのねじを緩めてください。
4. リールクラッチレバーを取り外してください。

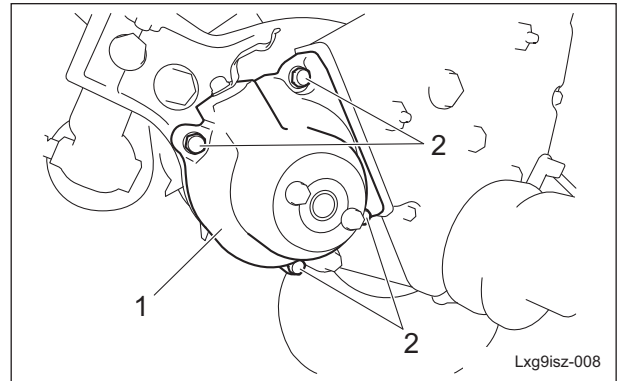


カバー小（左）の取り外し_001

1	木ハンマー
2	ラッピングボルト
3	クラッチ押えバネ
4	ねじ
5	リールクラッチレバー

5. ボルトを4本取り外してください。

6. カバー小（左）を取り外してください。



カバー小（左）の取り外し_002

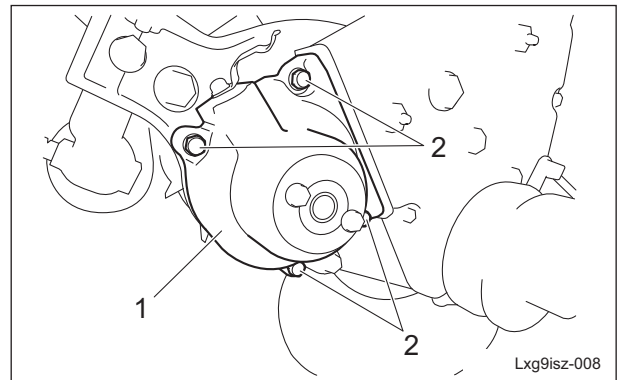
1	カバー小（左）
2	ボルト

カバー小（左）の取り付け

⚠ 注意

締め付けトルク一覧を参照してください。
異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けなどで生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。

1. カバー小（左）をフレームにボルト4本で取り付けてください。



カバー小（左）の取り付け_001

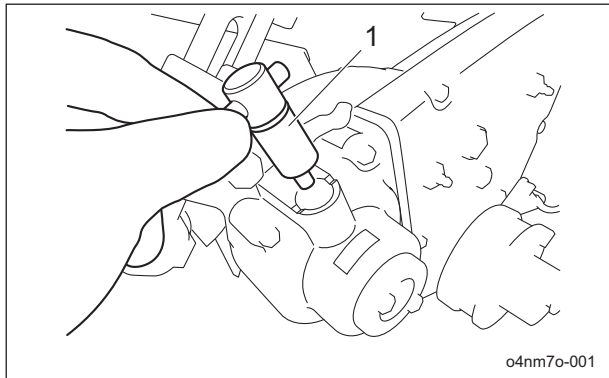
1	カバー小（左）
2	ボルト

メンテナンス

重要

リールクラッチレバーの軸をギヤの溝に確実に
はめ込んでください。

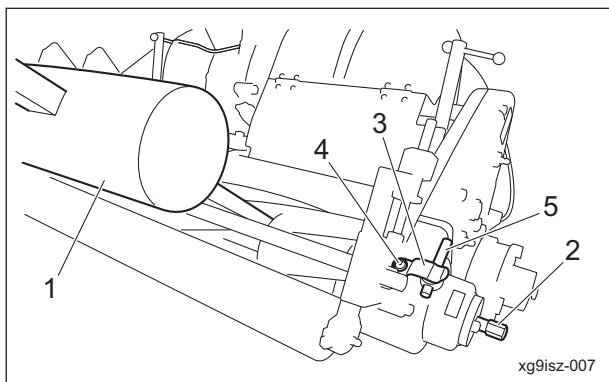
2. リールクラッチレバーを取り付けてください。



カバー小（左）の取り付け_002

1	リールクラッチレバー
---	------------

3. クラッチ押えバネのねじを締め付けてください。
4. 木ハンマーの柄などでリールカッターが回らないようにしてください。
5. ラッピングボルトを取り付けてください。



カバー小（左）の取り付け_003

1	木ハンマー
2	ラッピングボルト
3	クラッチ押えバネ
4	ねじ
5	リールクラッチレバー

メンテナンス・本体

ブレーキの調整

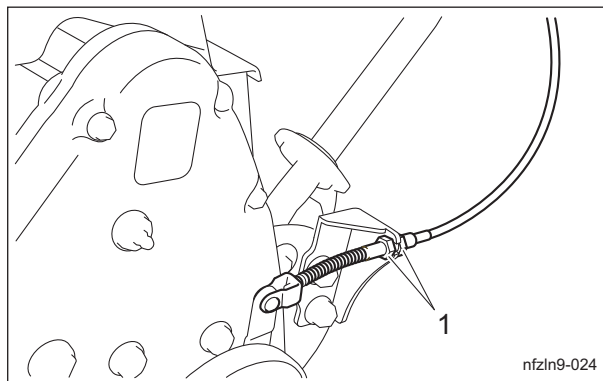
⚠ 危険

ブレーキワイヤーが切れると、本機は停止不能となり大変危険です。
亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

⚠ 危険

ブレーキをかけても、ブレーキの効きが悪くなった
ら、ブレーキワイヤーの調整をしてください。

1. ブレーキは、ブレーキワイヤーのアジャスト
ナットで調整してください。



ブレーキの調整_001

1	アジャストナット
---	----------

2. 反対側のブレーキも同様の手順で調整して
ください。

⚠ 危険

左右のブレーキの効きが違うと、思わぬ事故をお
こす恐れがあり大変危険です。

3. 左右のブレーキの効きが等しいことを確認し
てください。
4. ブレーキシューがブレーキドラムに当たっ
ていないことを確認してください。
ブレーキの引きずりを防止します。

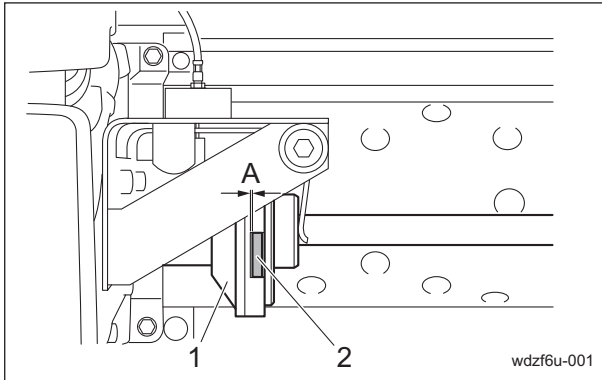
参考：

ドラムを回したとき、擦れる音がしたり、回転
が重い場合は、ブレーキシューがブレーキドラ
ムに当たっている可能性があります。

エンジンクラッチ部の調整

エンジン載せ替え時：

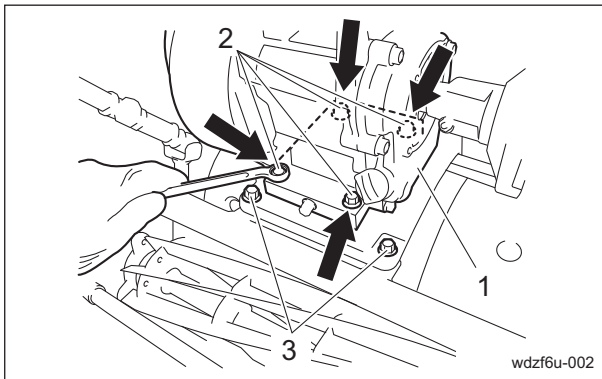
メインクラッチレバーを「入」の位置にしたとき、エンジンクラッチとクラッチフェーシングのすき間が 0.5 - 1.0 mm (0.020 - 0.039 in) になるように調節してください。



エンジンクラッチ部の調整_001

1	エンジンクラッチ
2	クラッチフェーシング
A	0.5 - 1.0 mm (0.020 - 0.039 in)

1. エンジンを取り付けている 4 本のボルト A を緩めてください。
2. シックネスゲージをすき間の前後から入れて、前後のすき間が同じ距離になるようにしてから、ボルト A を締め付けてください。

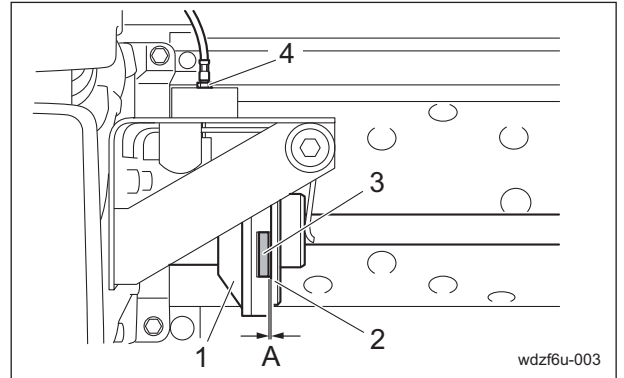


エンジンクラッチ部の調整_002

1	エンジン
2	ボルト A
3	ボルト B

クラッチワイヤー調整時：

メインクラッチレバーを「入」の位置にしたとき、「切」の位置にしたときのクラッチ板の作動量が 1.0 - 2.0 mm (0.039 - 0.079 in) になるように調節してください。



エンジンクラッチ部の調整_003

1	エンジンクラッチ
2	クラッチ板
3	クラッチフェーシング
4	クラッチワイヤー調節ナット
A	1.0 - 2.0 mm (0.039 - 0.079 in)

クラッチスプリング調整時：

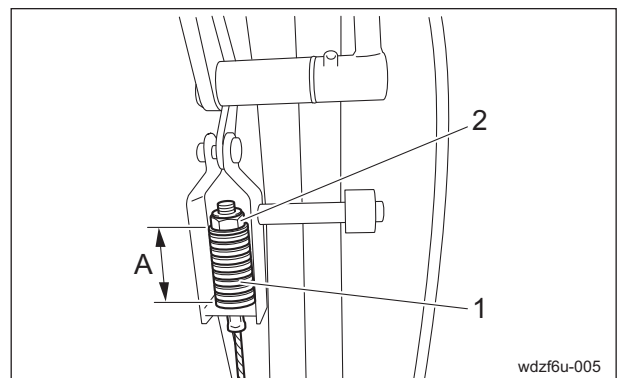
メインクラッチレバーを「入」の位置にしたとき、スプリングの全長が 35.0 mm (1.38 in) になるように調節してください。

参考：

工場出荷時のスプリングの全長は、35.0 mm (1.38 in) です。

スプリングの全長が長いとクラッチ操作は軽くなり、短いと重くなります。

メインクラッチレバーを「入」の位置にしたとき、エンジンクラッチの滑りがないことを確認してください。



エンジンクラッチ部の調整_004

1	クラッチスプリング
2	スプリング調節ナット
A	35.0 mm (1.38 in)

メンテナンス

エアクリーナーの交換

エンジンの取り扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。

エンジンの寿命を延ばすために適切な時期に交換をするように心掛けてください。

1. エアクリーナーエレメントの交換時期は、以下のとおりです。

[1] エアクリーナーエレメントは、メンテナンススケジュールに従って交換してください。

[2] 汚れの多い場合は、規定時間に達していなくても交換してください。

2. エアクリーナーエレメントの交換は、エアクリーナーの清掃と同様の手順で行ってください。

「エアクリーナーの清掃」(Page 4-4)

エンジンオイルの交換

エンジンの取り扱いについては、エンジンの取扱説明書を参照してください。

警告

エンジンオイルを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をする恐れがありますので、十分注意してください。

重要

エンジンオイルは、API サービス分類の SE 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

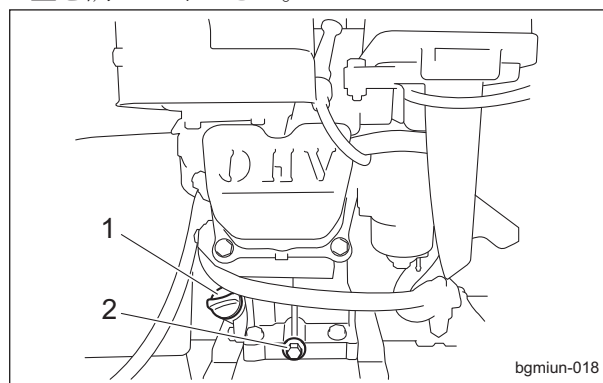
重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

エンジンオイルが汚れていたり、埃の多い環境で運転した場合や、エンジンを高負荷あるいは高温で運転した場合は、オイル交換の回数を増やしてください。

1. 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを停止してください。

2. エンジンオイルが温まっている間にドレンプラグを取り外し、エンジンオイルを容器に抜き取ってください。
3. ドレンプラグをエンジンに再度取り付けてください。
4. オイルレベルゲージを取り外してください。
5. オイル注入口から新しいエンジンオイルを入れてください。
エンジンオイル量は、0.5 dm³ (0.5 L) です。
6. エンジンを水平な状態にし、注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。



エンジンオイルの交換_001

1	オイルレベルゲージ (オイル注入口)
2	ドレンプラグ

7. オイルレベルゲージで量を確認した後、不足していれば追加してください。
8. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。

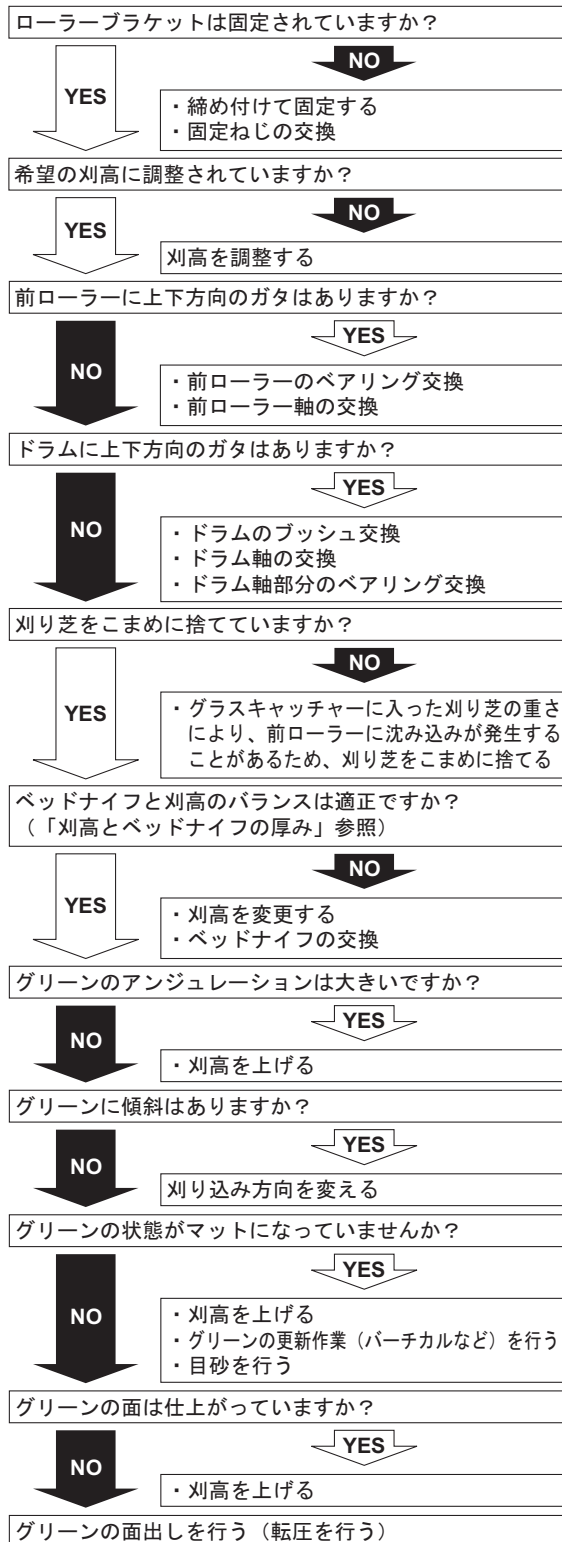
長期保管

長期保管について

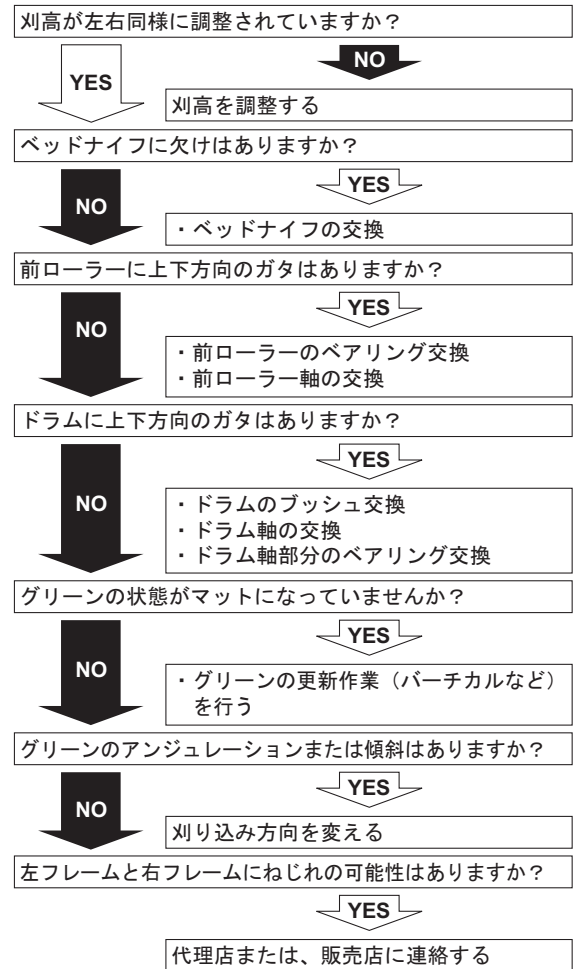
- ・ 泥や草屑、油汚れなどをきれいに落としてください。
- ・ 各注油箇所にはグリース注入、塗布と注油をしてください。

刈り込みの不具合対処

カジリの発生

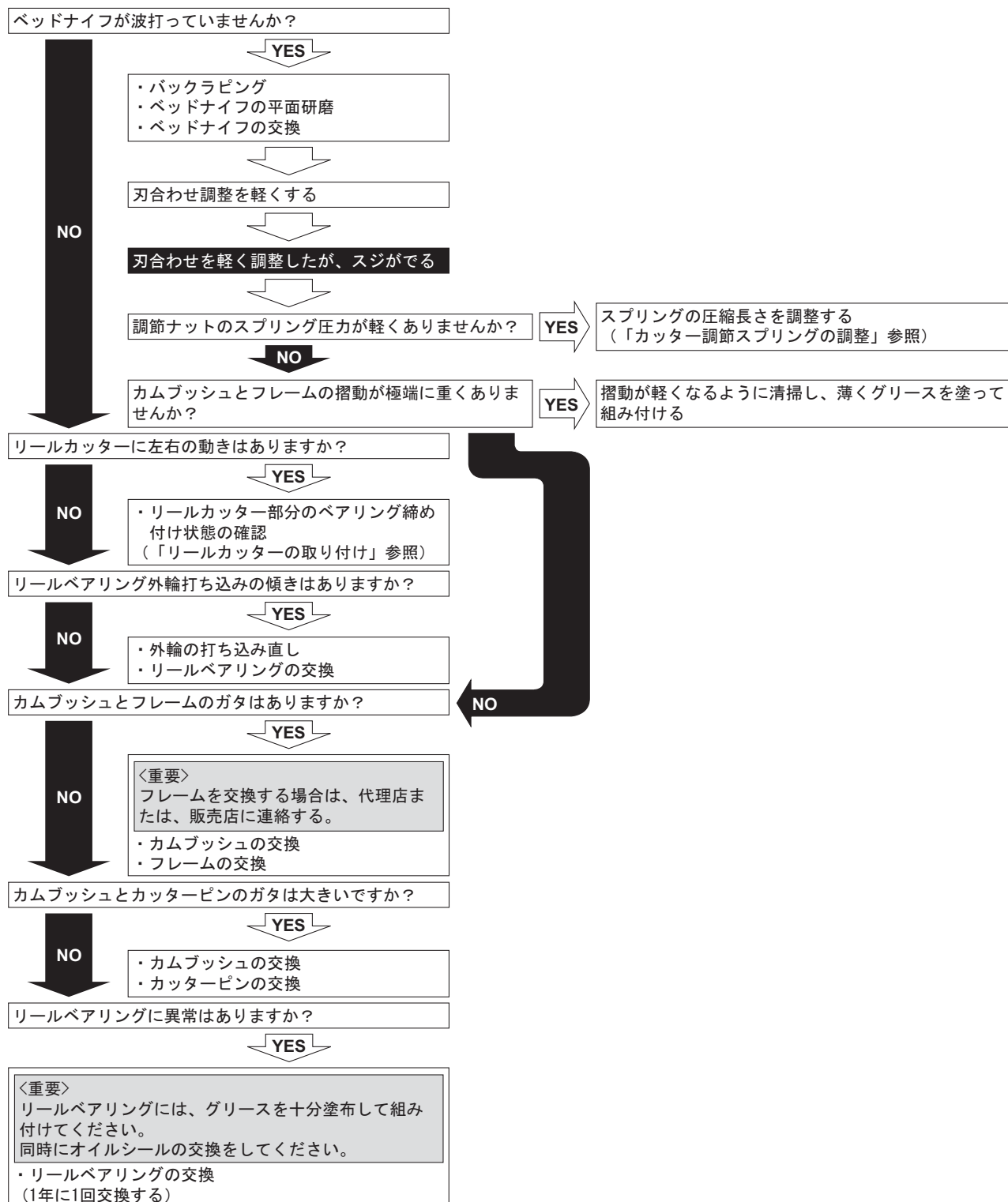


スジの発生（ブロック状の段差）

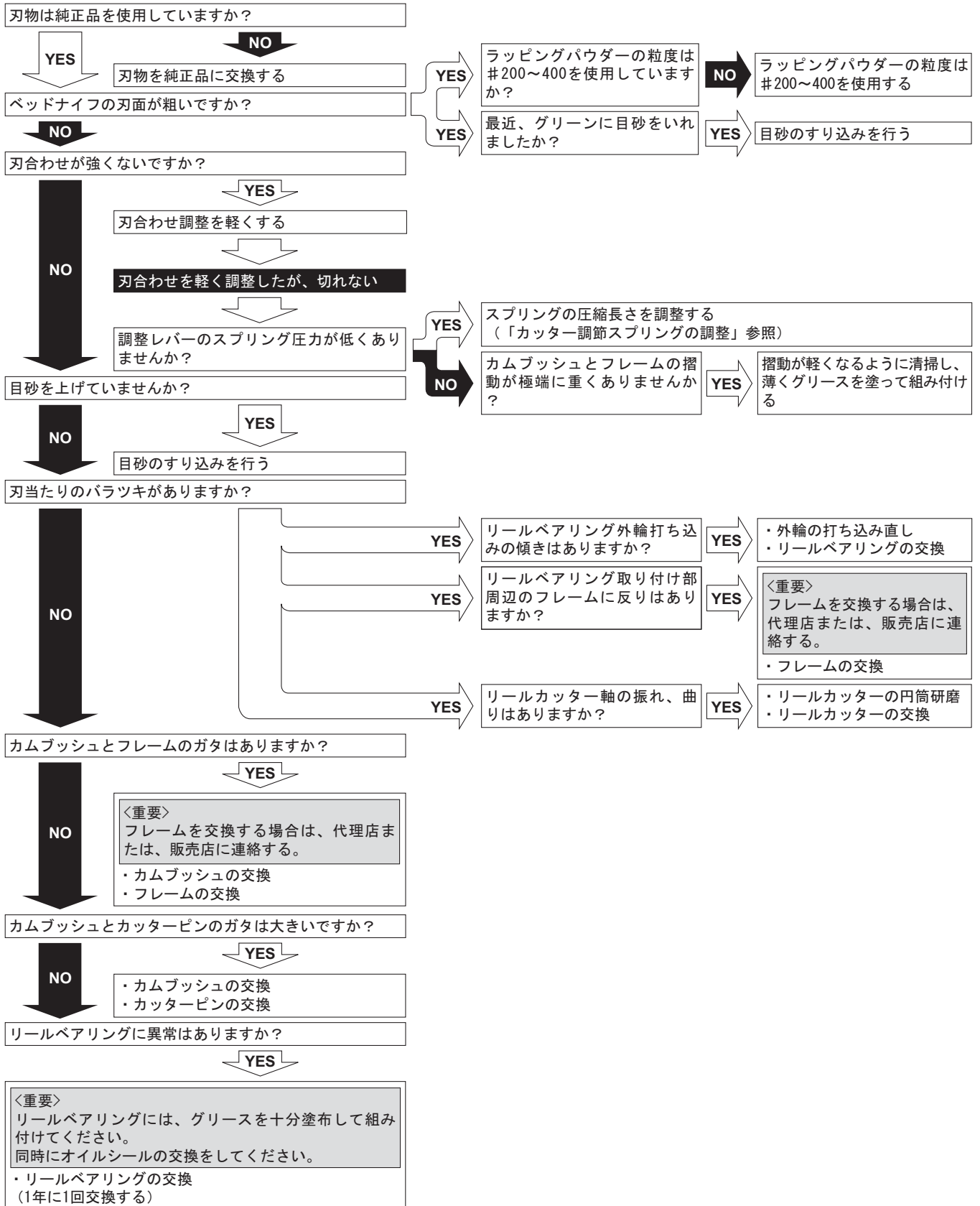


メンテナンス

スジの発生（白く帯状に見える）



刃が切れない



メンテナンス

メンテナンス

刃合わせの片ぎき

片ぎきとは、刃合わせ調整の左右にあるカッター調節ナットを締め付ける力に違いがでることまたは、片側の刃のみ接触し、調整できない状態のことです。

機械本来の性能を持続させるためにも速やかに解消するための対応をしてください。

片ぎきになる原因	解消するための対応
リールカッターの片減り	リールカッターの円筒研磨 リールカッターの交換
ベッドナイフの片減り	ベッドナイフの平面研磨 ベッドナイフの交換
フレームのねじれ	フレームを平行に組み直す

重要

症状の度合いにより、対応しきれない場合があります。

重要

応急処置をすることで、症状が進行し、刈り込みにおける不具合を発生させることがあります。

応急処置：

- ・ カムブッシュによる調整
「カム調整」(Page 5-8)
- ・ スプリング圧の調整
「カッター調節スプリングの調整」(Page 5-8)

BARONESS[®]
Quality on Demand



株式会社 共 栄 社
〒442-8530 TEL (0533) 84-1221
愛知県豊川市美幸町1-26 FAX (0533) 84-1220